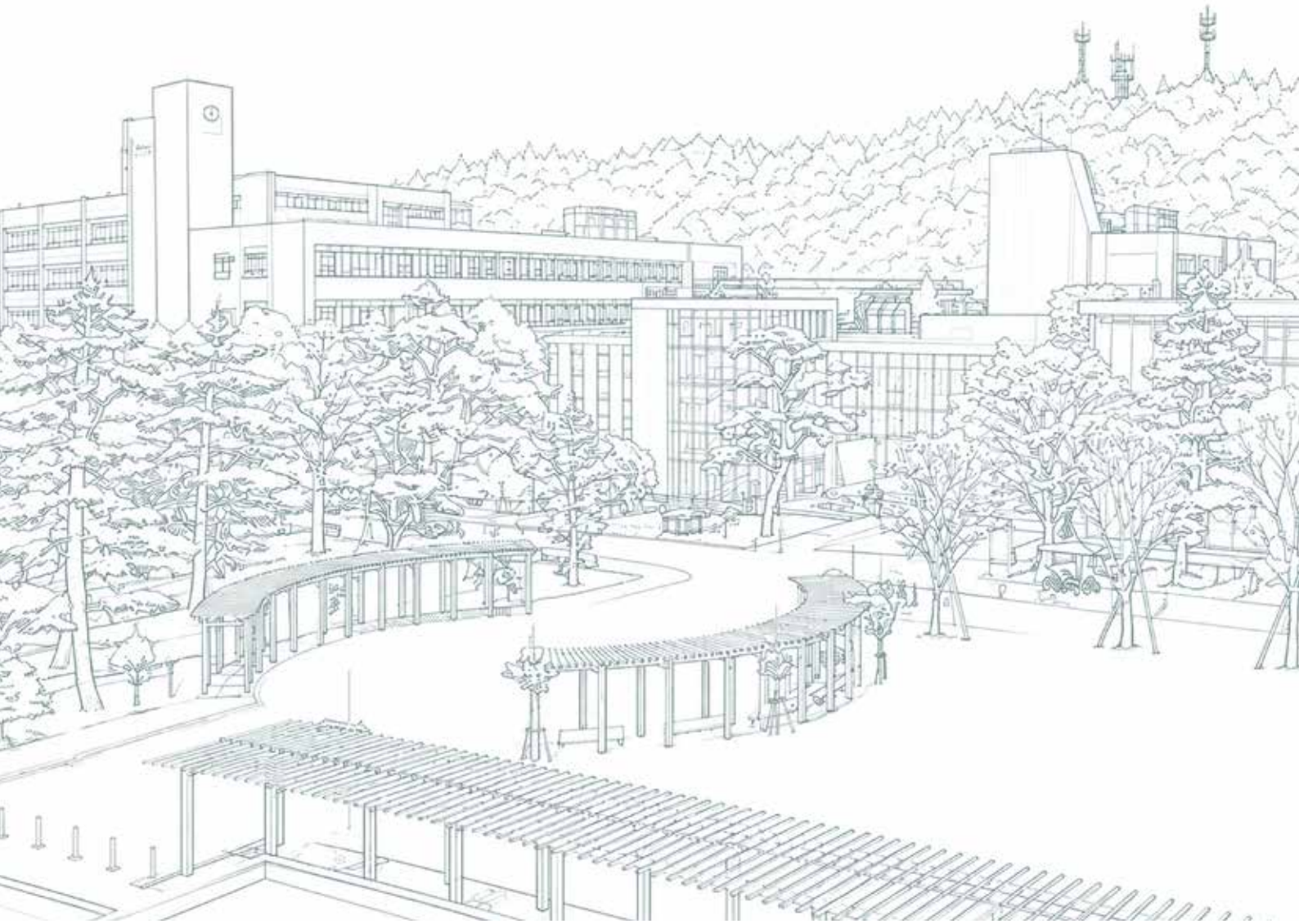
秋田大学概要

令和8年度

2026

AKITA UNIVERSITY



秋田大学
AKITA UNIVERSITY

基 本 理 念

1. 国際的な水準の教育・研究を遂行します。
2. 地域の振興と地球規模の課題の解決に寄与します。
3. 国の内外で活躍する有為な人材を育成します。

第4期中期目標・中期計画

Mid-term Objectives and Plan　（令和4年4月1日～令和10年3月31日）

国立大学法人秋田大学の中期目標　（前文）大学の基本的な目標

秋田大学は、知の創生を通じて地域と共に発展し、地域と共に歩むという存立の理念を掲げ、豊かな地域資源を有する北東北の基幹的な大学として、その使命である教育と研究を推進する。

この見地から本学は、独創的な成果を世界に発信しつつ、国内外の意欲的な若者を受け入れ、優れた人材を育成するため、地域や世界の諸機関との連携による柔軟な教育研究体制の構築を推進する。

一方、国立大学は、第４期中期目標期間において、地域から地球規模の諸課題に対処するためグローバル化やＤＸ（Digital Transformation、デジタル技術による変革）と、それらを基礎とした産業・社会構造の変革等に貢献していく必要がある。そこで、本学を構成する全ての学部・研究科等は、固有のミッションに基づく専門領域にＩＣＴ（Information and Communication Technology、情報通信技術）の要素を取り入れ、諸学諸組織との融合を通じて、地域社会の持続的な発展を担う専門的職業人と国際社会で活躍する高度専門職業人及び学術研究者を育成する。

こうした基本認識に立って、本学は学生と教職員との全学的な知の交わりが躍動する、学修者中心の大学たることを目指す。

以上のような理念に基づき、活動の基本的な目標を以下に定める。

1. 教育においては、質の国際通用性を高め、ＤＸ推進に必要な素養を身に付け、地域と世界の諸課題の解決に取り組む人材を育成する。
2. 研究においては、ＩＣＴを進化させて地域から地球規模に至る社会課題の解決に挑み、ＤＸを推進するイノベーションを創出し、その成果を継続的に地域と世界に発信する。
3. 社会連携においては、教育研究成果を地域社会に還元し、地域と協働した地域振興策の取り組みを推進するとともに、ＩＣＴを活用した医療体系の充実を図り、地域医療の格差をなくすことに貢献する。
4. 国際化においては、資源産出国を中心とした諸外国の留学生・研究者との学術交流を推進するとともに、情報工学を活用したスマート・マイニング（情報工学を積極的に取り入れた“これから”の資源情報学）を実践するため、学生や教職員の海外留学・派遣を促進する。
5. 大学経営においては、学長主導の下、学生及び教職員一人ひとりの活力を相乗的に高めた組織文化を浸透させ、透明性を確保した健全で効率的な大学経営を目指すとともに、学生及び教職員がSociety 5.0を構築するメンバーとして活躍できるよう環境を整備する。

中 期 目 標

Ⅰ　教育研究の質の向上
Ⅱ　業務運営の改善及び効率化
Ⅲ　財務内容の改善
Ⅳ　教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供
Ⅴ　その他業務運営

に関する目標を達成するためにとるべき措置として、中期計画を設定しています。
本学の中期目標・中期計画の全文は、右のQRコードからご覧いただけます。



Contents

01 学長あいさつ
03 沿革
04 教育研究組織
05 運営組織
06 事務組織
07 役職員
08 役員数／教職員数
学部・大学院
09 国際資源学部
10 教育文化学部
11 医学部
12 総合環境理工学部
13 情報データ科学部
14 大学院
大学施設
15 未来研究統括機構・地域共創機構
未来人材共創機構
17 学内共同教育研究施設／センター／技術組織
18 附属図書館
19 医学部附属病院
20 国際資源学研究科附属鉱業博物館
21 附属学校園及び教育研究施設等
22 福利厚生施設等
23 体育施設／インフォメーションセンター
サテライト
24 歴代学長
25 学生の定員・現員
26 入学志願者・入学状況／出身高校所在地別在学状況
27 卒業者・修了者数／学位授与数
28 卒業者等就職状況
29 外国人留学生数
30 外国人研究員等
31 国際交流協定校
32 国内機関との連携・協力協定
34 令和8年度予算／外部資金受入状況／令和7年度科学研究費助成事業採択状況
35 土地・建物
36 各連絡先・所在地一覧
37 手形地区施設配置図
38 本道地区施設配置図／保戸野地区施設配置図
39 アクセス



学長あいさつ

Message from the President

秋田大学は、1949年の新制国立大学としての発足以来、「国際的な水準の教育・研究」「地域の振興と地球規模の課題の解決」「国内外で活躍する有為な人材の育成」を基本理念に掲げ、教育・研究・社会貢献を通じて、その使命を果たしてまいりました。

その源流は、1873年創立の秋田伝習学校にはじまり、秋田鉱山専門学校、秋田師範学校、秋田青年師範学校など、地域の発展を支えてきた歴史ある教育機関へと遡ります。 幾代にもわたり受け継がれてきた学びの系譜を礎として、本学は秋田の地に深く根ざし、地域とともに歩み、地域とともに発展してきた大学です。

本学から巣立った卒業生は、教育、医療、産業、行政をはじめとする多様な分野において、秋田県内はもとより、全国、さらには国際社会の第一線で活躍しています。 その歩みを支えてきたのは、学生一人ひとりの個性と可能性を伸ばす教育であり、また、地域と社会の課題に真摯に向き合う研究と実践の積み重ねにほかなりません。 秋田大学は、知を深める場であると同時に、人を育て、地域を支え、社会に責任を果たす大学であり続けてきました。

しかし今日、私たちを取り巻く環境は、大きな転換の時代を迎えています。 少子化と人口減少、地域社会の縮小、国立大学をめぐる厳しい財政状況、そしてデジタル化や AI の急速な進展。 こうした変化は、大学のあり方そのものを問い直しています。 大学は、もはや教育研究の場にとどまらず、地域の知の拠点であり、人材育成の拠点であり、医療や産業、文化、地域社会を支える基盤としての役割を一層強く求められています。

このような時代であるからこそ、秋田大学は、変化に受け身で応じるのではなく、自ら改革を進め、自ら未来を切り拓く大学でなければならないと、私は考えています。

その認識のもと、本学は「秋田大学改革プラン」を掲げ、将来を見据えた改革を着実に進めています。これは一時的な対応ではありません。 秋田大学が、これからも社会に必要とされ、若者に選ばれ、地域から信頼され続ける大学であるための、確かな基盤を築く営みです。 教育改革、研究力の強化、地域貢献の充実、経営基盤の強化を柱として、本学の強みをさらに鮮明にし、次の時代へと責任をもって引き継いでいく。 そのための挑戦を、私たちは今、進めています。

本学は現在、5学部体制のもと、それぞれの特色を生かした教育研究を展開しています。 国際資源学部では、世界各地でのフィールドワークを通じて、資源・エネルギー・環境問題に実践的に向き合っています。教育文化学部では、地域社会の未来を担う人材を育

成しています。 医学部では、地域医療を支える責任を自覚しつつ、先端医療研究と高度専門職業人の養成に取り組んでいます。 総合環境理工学部では、持続可能な社会の実現に向けた科学技術の発展を推進し、情報データ科学部では、AIやデータサイエンスを基盤として、社会課題の解決と新たな価値創造を担う人材の育成を進めています。

さらに本学では、学部の枠を越えた横断的な教育を重視し、すべての学生がデータサイエンスとAIの基礎を学ぶ体制を整えています。 英語教育の充実にも継続して取り組み、地域から世界へと羽ばたくことのできる人材の育成を目指しています。 近年、就職を希望する卒業生のほぼ100%が進路を決定していることは、本学の教育が社会から確かな信頼を得ていることの証であると受け止めています。

また、本学では、大学院改革に向けた準備を進めています。 本学の特色ある研究分野と秋田県の重点産業をつなぐ一気通貫の教育研究体制を構築するとともに、文理融合による研究指導体制を強化し、学部から大学院へとつながる学びの充実を図ってまいります。その推進母体として、令和8年度には「未来人材共創機構」を設置し、県内高等教育機関との教育連携、博士人材の育成と雇用創出、学生の地域定着を一層進めてまいります。

加えて、令和7年4月には、既存のセンター等を統合・集約し、「未来研究統括機構」を設置しました。 これにより、研究支援体制の強化と研究環境の整備を進め、教員がより研究に力を尽くすことのできる体制づくりを進めています。 本学の強みである重点研究分野を中核に研究活動を推進するとともに、研究マネジメント機能や産学官連携機能を高め、効率的な資源配分、外部資金の獲得、教育研究の質の向上、そして経営基盤の強化へとつなげてまいります。

同じく、令和7年4月には、「地域共創機構」を設置しました。 本機構は、リカレント教育、地域協働、地域防災減災を軸として、地域との協働による課題解決を推進する拠点です。 人口減少や高齢化、災害リスクなど、秋田県が直面する課題に対し、自治体、企業、住民の皆様と連携しながら、教育・研究成果の地域還元、人材育成、産業振興、防災・減災の取組を進め、持続可能な地域社会の実現に貢献してまいります。

とりわけ、本学は、医学部と附属病院を有する大学として、高度医療を担うだけでなく、人口減少社会における新たな地域医療のあり方を探究し、それを支える人材を育成しながら、地域全体を支える責務を負っています。 医療、福祉、産業、教育、防災、エネルギーなど、多様な分野と連携し、大学の知を地域の未来へと結びつけていくことは、本学に課せられた重要な使命であると考えています。

私は、学長就任以来、「夢の実現」を一貫したビジョンとして掲げてまいりました。 秋田大学に集うすべての人が、自らの可能性を信じ、志を持ち、挑戦を重ね、その先にある夢を実現していく。 そのための場と機会を整え、一人ひとりの成長を支えることこそ、本学の重要な使命であると考えています。 先行きが見えにくい時代であるからこそ、自ら問いを立て、他者と協働し、失敗を恐れず挑戦を続ける力が求められています。本学は、そのような歩みに真摯に寄り添い、未来を切り拓く人材を育ててまいります。

秋田大学は、規模の大きさによってではなく、一人ひとりの成長の深さによって評価される大学でありたいと願っています。 地域に根ざしながら世界に開かれ、伝統を礎としつつ不断の改革を重ね、教育・研究・社会貢献を通じて未来を切り拓く大学として、これからも挑戦を続けてまいります。

今後とも、皆様の一層の御理解と御支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

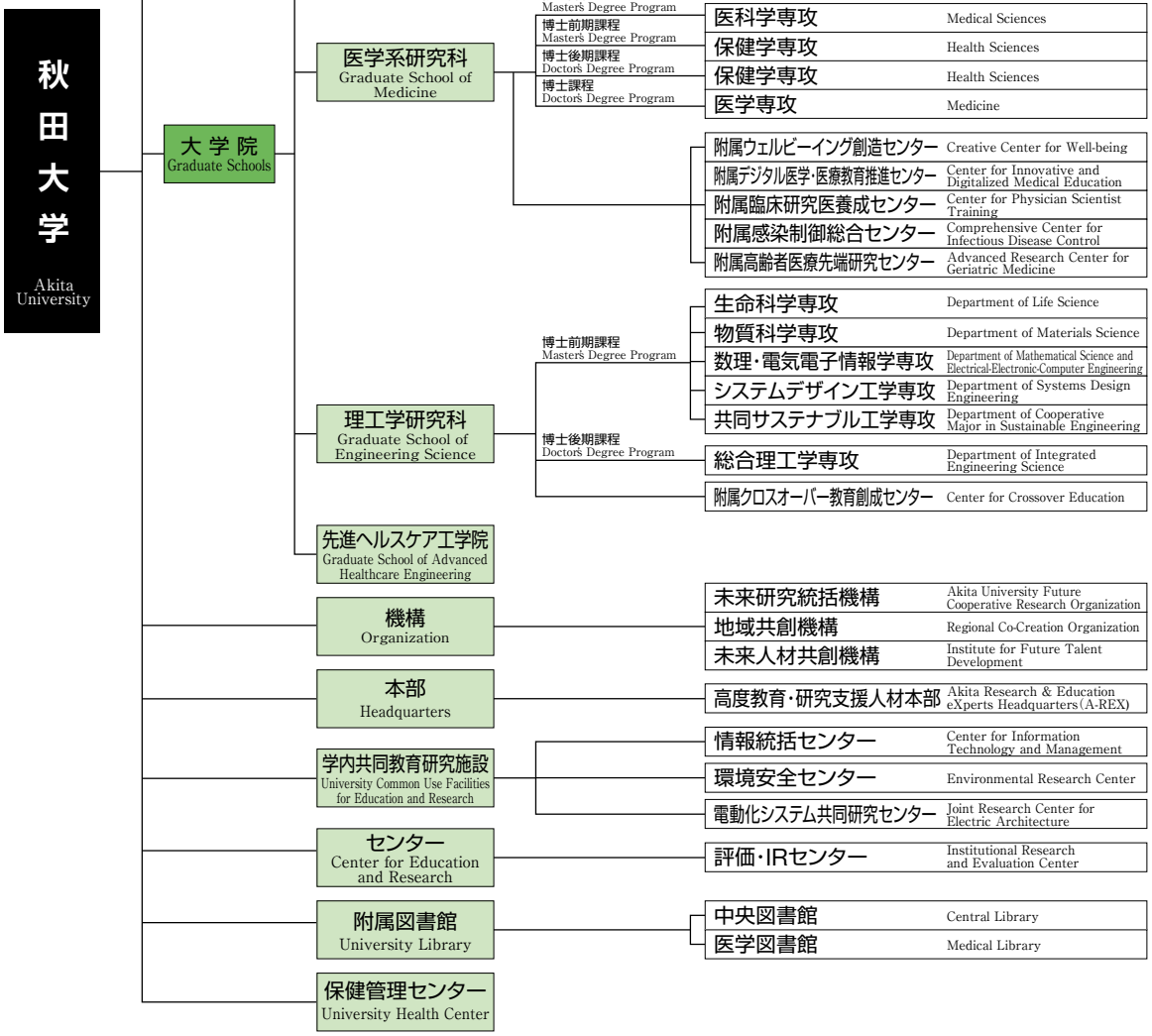
国立大学法人秋田大学長

南谷　佳弘

1873 1910 1924	明治6年 明治43年 大正13年	秋田伝習学校 秋田鉱山専門学校（官立） 秋田県立実業補習学校、教員養成所
1949	昭和24年	新制国立大学の発足 学芸学部、鉱山学部からなる 秋田大学を設置
1967	昭和42年	学芸学部から教育学部へ改称
1970	昭和45年	医学部を設置
1998	平成10年	教育学部から教育文化学部へ改組 鉱山学部から工学資源学部へ改組
2004	平成16年	国立大学法人秋田大学に移行
2014	平成26年	国際資源学部を設置 教育文化学部を改組 工学資源学部から理工学部へ改組
2025	令和7年	情報データ科学部を設置 理工学部から総合環境理工学部へ改組
2026	令和8年	新組織体制 **国際資源学部** 国際資源学科 附属鉱業博物館 **教育文化学部** 学校教育課程、地域文化学科 附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校、附属教職高度化センター **医学部** 医学科、保健学科 附属病院、附属ウェルビーイング創造センター、 附属デジタル医学・医療教育推進センター、附属臨床研究医養成センター、 附属感染制御総合センター、附属高齢者医療先端研究センター **総合環境理工学部** 応用化学生物学科、環境数物科学科、社会システム工学科 附属クロスオーバー教育創成センター、通信教育講座（令和8年度以降新規受講生募集停止） **情報データ科学部** 情報データ科学科 **機構、共同教育研究施設、センター等** 未来研究統括機構、地域共創機構、未来人材共創機構 高度教育・研究支援人材本部 附属図書館、保健管理センター 情報統括センター、環境安全センター、電動化システム共同研究センター、 評価・IRセンター

沿革の詳細は、HPに掲載しています。

教育研究組織
Academic Organization



監　事
（2人）
〈うち、非常勤1人〉
Auditors

経営協議会
（15人）
Management Committee

経営に関する重要事項を審議

- 学長
- 理事（総括・研究・情報担当）
- 理事（教育・国際・学生・大学院改革担当）
- 理事（地方創生・広報・渉外・附属学校・学部改革担当）
- 理事（総務・人事・財務・施設・環境担当）・事務局長
- 理事（経営分析担当）〈非常勤〉
- 医学部附属病院長
- 学外委員（8人）

役　員　会
（7人）
Board of Directors

経営、教学の両面にわたり、特定の重要事項について、学長の意思決定に先立ち議決

- 学長
- 理事（総括・研究・情報担当）
- 理事（教育・国際・学生・大学院改革担当）
- 理事（地方創生・広報・渉外・附属学校・学部改革担当）
- 理事（総務・人事・財務・施設・環境担当）・事務局長
- 理事（経営分析担当）〈非常勤〉
- 理事（地域医療担当）〈非常勤〉

教育研究評議会
（25人）
Education and Research Council

教育研究に関する重要事項を審議

- 学長
- 理事（総括・研究・情報担当）
- 理事（教育・国際・学生・大学院改革担当）
- 理事（地方創生・広報・渉外・附属学校・学部改革担当）
- 理事（総務・人事・財務・施設・環境担当）・事務局長
- 副学長（学部間連携担当）
- 副学長（評価・IR担当）
- 副学長（国際戦略担当）
- 国際資源学研究科長
- 教育文化学部長
- 医学系研究科長
- 理工学研究科長
- 情報データ科学部長
- 先進ヘルスケア工学院長
- 附属図書館長
- 医学部附属病院長
- 教育推進主管
- 各学部長等が推薦し、学長が任命する当該学部等の教授
- 未来研究統括機構長が推薦し，学長が任命する教授

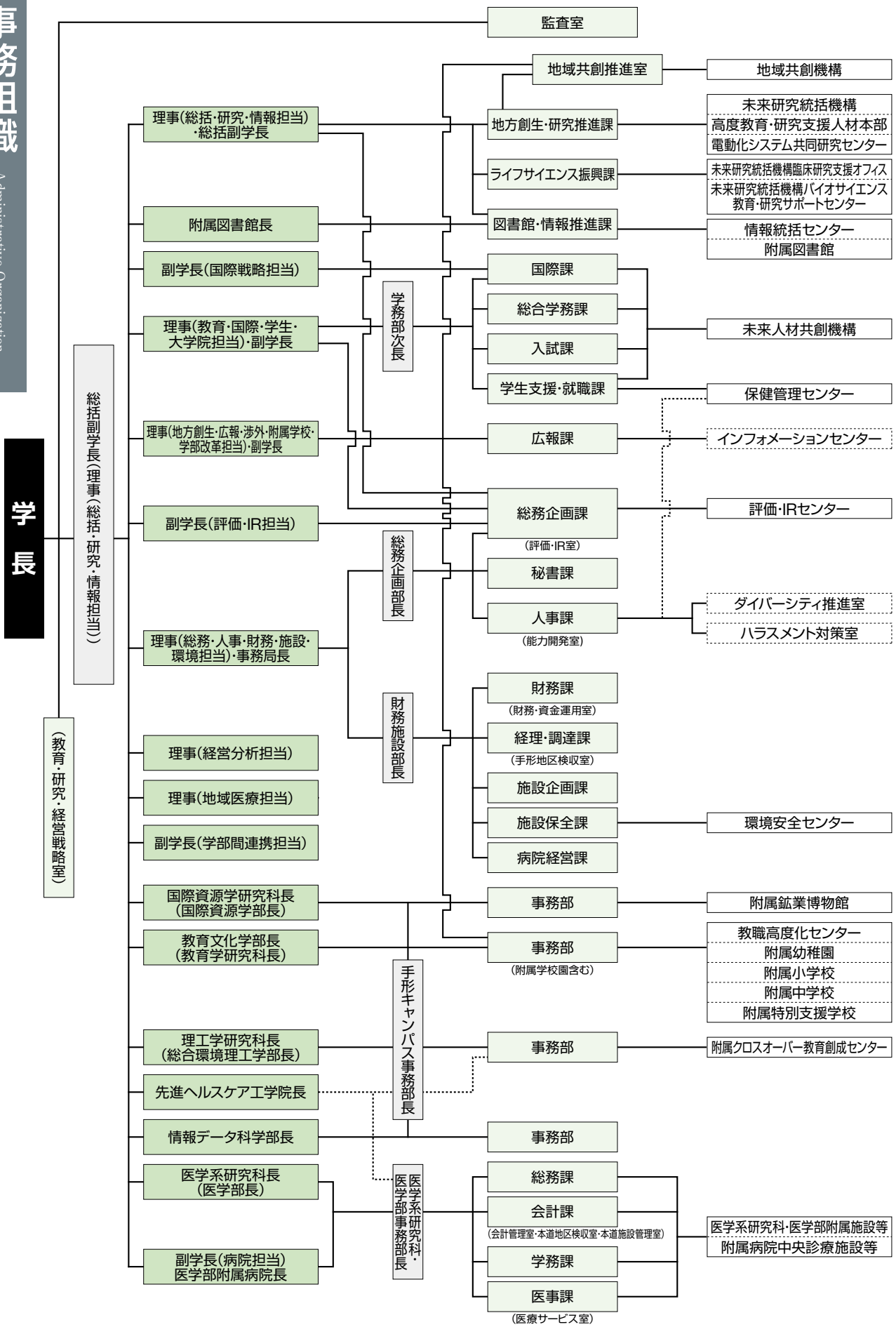
学長選考・監察会議
（10人）

- 経営協議会の学外委員で、経営協議会において選出された者（5人）
- 国際資源学研究科長／教育文化学部長／医学系研究科長／理工学研究科長
- 理事（総括・研究・情報担当）

大学運営会議
（13人）

- 学　長
- 理事（総括・研究・情報担当）／理事（教育・国際・学生・大学院改革担当）／理事（地方創生・広報・渉外・附属学校・学部改革担当）／理事（総務・人事・財務・施設・環境担当）・事務局長
- 副学長（評価・IR担当）
- 国際資源学研究科長／教育文化学部長／医学系研究科長／医学系研究科保健学専攻長／理工学研究科長／情報データ科学部長／附属図書館長／医学部附属病院長

事務組織
Administrative Organization



役職員
Administrative Staff

令和8年5月1日現在

役員等

学長	南谷　佳弘
理事(総括・研究・情報担当)(兼)総括副学長	尾野　恭一
理事(教育・国際・学生・大学院改革担当)(兼)副学長	後藤　　猛
理事(地方創生・広報・渉外・附属学校・学部改革担当)(兼)副学長	上田　晴彦
理事(総務・人事・財務・施設・環境担当)（兼)事務局長	猪村　　篤
理事(経営分析担当)(非常勤)	工藤　孝徳
理事(地域医療担当)(非常勤)	佐々木　薫
監事	播磨屋寿敏
監事(非常勤)	越山　　薫
副学長(学部間連携担当)	疋田　正喜
副学長(評価・IR担当)	長縄　明大
副学長(病院担当)	渡邊　博之
副学長(国際戦略担当)	藤井　　光

学長補佐

学長補佐(ハラスメント対策担当)	水戸部一孝
学長補佐(ハラスメント対策担当)	工藤由紀子
学長補佐(ダイバーシティ推進担当)	福山　繭子
学長補佐(地域協働担当)	臼木　智昭
学長補佐(感染制御担当)	嵯峨　知生
学長補佐(広報担当)	益満　　環
学長特別補佐	榊　　純一

経営協議会

学長	南谷　佳弘
理事(総括・研究・情報担当)	尾野　恭一
理事(教育・国際・学生・大学院改革担当)	後藤　　猛
理事(地方創生・広報・渉外・附属学校・学部改革担当)	上田　晴彦
理事(総務・人事・財務・施設・環境担当)	猪村　　篤
理事(経営分析担当)	工藤　孝徳
医学部附属病院長	渡邊　博之
秋田魁新報社代表取締役社長	佐川　博之
日本医師会常任理事, 特定医療法人敬徳会理事長	藤原　慶正
新国立劇場運営財団理事長	銭谷　眞美
国立がん研究センター中央病院長(元東京大学医学部附属病院長)	瀬戸　泰之
秋田県副知事	谷　　剛史
秋田銀行相談役(代表取締役)	新谷　明弘
青森中央学院大学長(前弘前大学長)	佐藤　　敬
TDK株式会社社外取締役	中山こずゑ

教育研究評議会

学長	南谷　佳弘
理事(総括・研究・情報担当)	尾野　恭一
理事(教育・国際・学生・大学院改革担当)	後藤　　猛
理事(地方創生・広報・渉外・附属学校・学部改革担当)	上田　晴彦
理事(総務・人事・財務・施設・環境担当)	猪村　　篤
副学長(学部間連携担当)	疋田　正喜
副学長(評価・IR担当)	長縄　明大
副学長(国際戦略担当)	藤井　　光
国際資源学研究科長	稲垣　文昭
教育文化学部長	大橋　純一
医学系研究科長	宮腰　尚久
理工学研究科長	寺境　光俊
先進ヘルスケア工学院長	景山　陽一
附属図書館長	千代延　俊
医学部附属病院長	渡邊　博之
情報統括センター長	水戸部一孝
教育推進主管	德重　英信
国際資源学研究科教授	高橋　亮平
国際資源学研究科教授	玉井　雅隆
教育文化学部教授	山名　裕子
教育文化学部教授	和泉　　浩
医学系研究科教授	板東　良雄
医学系研究科教授	吉岡　政人
理工学研究科教授	熊谷　誠治
理工学研究科教授	吉村　　哲
情報データ科学部教授	景山　陽一
情報データ科学部教授	水戸部一孝

本部等

副理事	小川　輝芳
監査室長	川辺　朋矢
地方創生・研究推進課長	加賀屋聡一
地方創生・研究推進課地域共創推進室長	小林由美子
ライフサイエンス振興課長	鈴木奈美子
図書館・情報推進課長	利　　勝利
広報課長	小林由美子
学務部次長	佐々木直樹
学務部総合学務課長	佐々木直樹
学務部国際課長	牧野　洋子
学務部学生支援・就職課長	塚本　紀彦
学務部入試課長	赤津　光洋
総務企画部長	福島　哉史
総務企画部総務企画課長	昌子　純子
総務企画部秘書課長	石井　　泰
総務企画部人事課長(兼)能力開発室長	能登　竜一
財務施設部長	宮倉　尚之
財務施設部財務課長	高橋　尚之
財務施設部経理・調達課長	小林　一俊
財務施設部施設企画課長	佐藤　秀樹
財務施設部施設保全課長	石谷　育弘
財務施設部病院経営課長	熊谷　文隆

機構・センター等

未来研究統括機構長	尾野　恭一
未来研究統括機構イノベーションオフィス長	景山　陽一
未来研究統括機構臨床研究支援オフィス長	三島　和夫
未来研究統括機構バイオサイエンス教育・研究サポートセンター長	海老原　敬
未来研究統括機構放射性同位元素センター長	齋藤　嘉一
未来研究統括機構共同機器利用センター長	吉村　　哲
未来研究統括機構AI研究推進センター長	景山　陽一
地域共創機構長	上田　晴彦
未来人材共創機構長	後藤　　猛
高度教育・研究支援人材本部長	尾野　恭一
情報統括センター長	水戸部一孝
環境安全センター長	林　　滋生
電動化システム共同研究センター長	榊　　純一
評価・IRセンター長	長縄　明大
保健管理センター所長	伏見　雅人
教育推進主管	德重　英信

附属図書館

館長	千代延　俊
医学部分館長	大森　泰文

手形キャンパス事務部

事務部長	飯塚　博幸

国際資源学研究科

研究科長	稲垣　文昭
事務長	稲葉　倫子
附属鉱業博物館長	大場　　司

教育文化学部

学部長	大橋　純一
事務長	飯塚　博幸
教職高度化センター長	佐藤　修司
附属幼稚園長	瀬尾　知子
附属小学校長	林　　正彦
附属中学校長	吉澤　恭子
附属特別支援学校長	柴田　　健

医学系研究科

研究科長	宮腰　尚久
附属病院長	渡邊　博之
附属ウェルビーイング創造センター長	本郷　道生
附属デジタル医学・医療教育推進センター長	及川沙耶佳
附属臨床研究医養成センター長	藤田　浩樹
附属高齢者医療先端研究センター長	大田　秀隆
附属感染制御総合センター長	嵯峨　知生
事務部長	荒井　忠行
総務課長	藤田　大和
会計課長	井澤　郁美
学務課長	小柳　智子
医事課長	山形　知子

理工学研究科

研究科長	寺境　光俊
事務長	工藤奈緒美
附属クロスオーバー教育創成センター長	大口　健一

情報データ科学部

学部長	長縄　明大
事務長	小川　輝芳

役員数

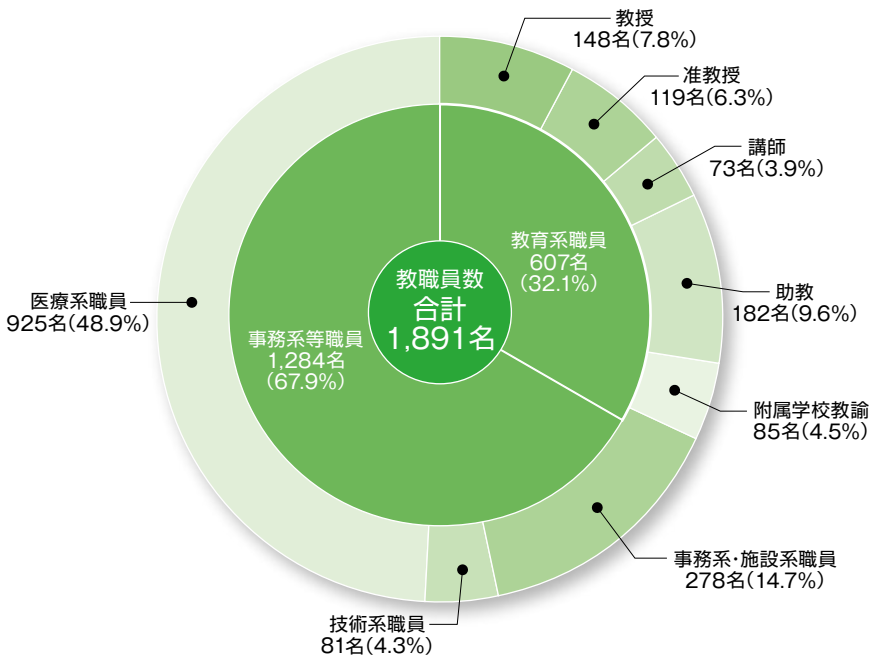
令和8年5月1日現在

区　分	学　長	理　事	監　事	合　計
学　長	1			1
理　事		6（2）		6（2）
監　事			2（1）	2（1）
合　計	1	6（2）	2（1）	9（3）

※（　）内の数は非常勤で内数

教職員数

令和8年5月1日現在



※教育系職員には特任教員を含め、寄附講座等教員を除く。

職別・男女別

令和8年5月1日現在

区分	教　授		准教授		講　師		助　教		附属学校教諭		事務系・施設系職員		技術系職員		医療系職員	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
男	129	87.2	102	85.7	53	72.6	122	67.0	39	45.9	147	52.9	52	64.2	197	21.3
女	19	12.8	17	14.3	20	27.4	60	33.0	46	54.1	131	47.1	29	35.8	728	78.7
合計	148		119		73		182		85		278		81		925	

学部・大学院

国際資源学部



国際資源学部は、地球規模の資源問題解決に向けて、資源生成メカニズムの解明から資源の探査、開発・生産までを対象とした理工系分野と、資源国の政策・文化や資源経済などを対象とした人文社会系分野からなり、網羅的に資源を学ぶことができる我が国唯一の「資源学」を対象とした学部です。世界の第一線で活躍する教授陣を結集し、世界をフィールドとして資源学の最先端を学びます。国内外の大学や企業、研究機関との強力な連携体制のもと、国際舞台で活躍できる資源人材を養成します。

当学部で実施する英語による専門科目の講義や学生全員が参加する約４週間の海外実習（海外資源フィールドワーク）などの実践的な教育によって、学生の皆さんは高い国際性と専門性を身につけることができます。2014年の学部創設から現在まで多くの卒業生が国際的な資源ビジネスに取り組む企業に就職しています。資源のスペシャリストになり、世界の持続可能な開発への貢献を目指す皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

学部の構成（1学科）

【国際資源学科】

地球規模の資源問題解決に向けて、国際的な視野をもち、実践的能力を育みます。

●資源政策コース（人文・社会科学系）

資源を取り巻く国際情勢や政策・法制度を理解するため、関連する政治学や経済学、資源国とのビジネスや国際協力、さらにはその背景となる資源地域の文化や歴史、宗教などの問題も学びます。

●資源地球科学コース（理学系）

世界を対象とした資源分布の予測と新たな地球資源の可能性を探究するため、地質学、鉱床学、岩石学、古生物学、地球化学などの最先端地球科学を学びます。

●資源開発環境コース（工学系）

地球環境との調和を図りながら地球の限られた資源を持続可能かつ有効に利用していくために、エネルギー・鉱物資源開発やリサイクル、製錬、環境保全などに関わる専門分野を学びます。

カリキュラムの特色



全て英語で授業

世界で活躍するために、英語力は必須です。国際資源学部では、1・2年次に「I-EAP」と呼ぶ特別カリキュラムで集中的に英語を学びます。また、ディスカッション演習、ディベート演習によって、実際に英語で議論ができるようになることを目標に学習を進めていきます。こうした実践的な英語学習と並行して、基本的に講義はすべて英語で行います。語学力の面でも、国際的な最前線で戦える力を身に付けることができるカリキュラムを用意しています。

文理融合カリキュラム

海外で資源の開発を行う上で、開発に必要な地球科学、資源工学といった理系の知識はもちろんのこと、その国の政治・経済状況、文化や制度を知っておくことは、極めて重要な意味を持っています。国際資源学部では、専門科目の一部はコースを横断して履修できるカリキュラムとなっており、文系理系の枠を越えて資源学を修める上で共通に求められる知識・技術を修得することができます。企業が海外での資源戦略を展開する上では、文系の知識と技術系の知識の両方が必要になり、文理融合の視点は欠かせません。

海外実習必修の教育制度

3年次の後半に、全ての学生が海外資源フィールドワークに参加します。国際資源学部では、国内の大学や企業はもちろん、海外の大学や企業からも協力を得て、学生全員が海外で4週間程度の資源学に関連するフィールドワークを実施できるネットワークを用意しています。これまでの実績としては、ヨーロッパや北米、南米、東南アジア、中央アジア、中東、アフリカなど、まさに世界中を対象としたプログラムを実行してきました。実際に操業している鉱山での研修や、海外の大学でのレクチャーの受講、研究施設や企業の資源ビジネスの現場を訪問することで、地球と資源、資源と人間との関係について実感をもって学ぶことができます。

教育文化学部



教育文化学部は、教員養成を担う学校教育課程と地域協働の核となる人材養成を担う地域文化学科の1課程1学科からなります。 学校教育課程は、教育現場との密接な連携を図りつつ、実践力のある教員を養成、全国最高水準の秋田県教育の継承と発展・普及を目指します。 地域文化学科では、社会科学・人文科学などの多様な学問分野の学習と、地域と連携した授業・フィールドワークなどの実習を通じて、地域の諸課題についてグローバルな視点とローカルな視点から実践的に学ぶことができます。 様々な課題を抱える教育や地域に貢献し、持続可能な社会を作るためにみなさんの力が求められています。 現場に根ざした実践的な学びは世界と未来につながり、みなさんの人生を豊かなものにしてくれるでしょう。

学部の構成（1課程1学科）

【学校教育課程】

地域の教育の活性化に貢献する教員を養成します。

●初等中等教育コース

〈教育実践プログラム〉

小学校教員の養成を主とし、中学校教員養成も含めて、小中連携にも対応できるようになるとともに、子どもの心身の成長発達について理解を深め、全国トップクラスの学力を支える高度な実践力を持った教員を養成します。

〈英語教育プログラム〉

小中高の連携による英語教育を実践できるとともに、英語力のみならず言語学的知識と英語圏文化の素養を身につけた上で、異文化間コミュニケーション能力を持った教員を養成します。

〈理数教育プログラム〉

理科または算数・数学の体系的な知識と指導法を身に付け、理科や算数・数学のおもしろさを子どもに伝えることができ、実感を伴った理解へと学習を発展させることができる教員を養成します。

●特別支援教育コース

特別支援学校及び小・中学校等で特別支援教育を担うとともに、インクルーシブな環境で、発達の特性や特別なニーズに対応した支援を実践できる教員を養成します。

●こども発達コース

幼稚園や保育所の教員・保育士及び小学校教員の養成を主とし、幼保小連携に対応できるスキルを身につけるとともに、人間の生涯にわたる発達過程や、幼児教育・保育と学校教育の全課程を見通しながら省察できる教員を養成します。



教育実習の様子

【地域文化学科】

地域社会や文化の活性化に貢献する人材を養成します。

●地域社会コース

法学、政治学、経済学、経営学、社会学、マーケティングなどの社会科学を軸にしながら、地理学、環境科学、食健康学、住環境学や情報科学も併せて学べます。さらに学内外での授業を通じて得た知識や技能を用いて、総合的かつ多角的に地域社会をとらえる能力の修得を目指します。

●国際文化コース

日本を含むアジアと欧米の言語・文化について、文学・歴史学・哲学・芸術学・言語学などの人文科学的な視座から学べます。さらに海外研修と語学検定への支援や外国語修得プログラム（英・独・仏・露・中国・朝鮮語）も活用し、国際社会の多様なあり方を理解した上で、その知見を地域文化の活性化につなげられる能力の修得を目指します。

●心理実践コース

心理学に必要な理論や実践、統計法、面接法などについて、基礎から応用までを体系的に学べます。さらに学んだ知識や技能を用いて、地域の問題や課題を考え、様々な活動や調査研究が行える能力の修得を目指します。



大学と自治体との連携事業での成果報告書の提出の様子（コース演習科目）



箱庭療法の実習



講義（人文学入門）

医学部



医学部は医学科と保健学科の2つの学科で構成され、医学科では医師を、保健学科では看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士の育成を通じて、社会に貢献することを目指しています。 1970年に創設されて以来、6,500名以上の卒業生を送り出し、秋田県内はもとより全国各地で医療の最前線に立つとともに、医療界の様々な分野の指導者として活躍しています。

今、日本は激動の時代を迎えています。 毎年のように各地で発生する地震や集中豪雨、感染症等、人々の生活や健康が脅かされています。 少子高齢化に歯止めはかからず、地方における医師・看護師不足がますます深刻化しています。 こういう時代だからこそ、みなさんの力が必要です。 皆さんとともに日本の医療・医学・保健・福祉に貢献できるよう、一緒に頑張りましょう。

学部の構成（2学科）





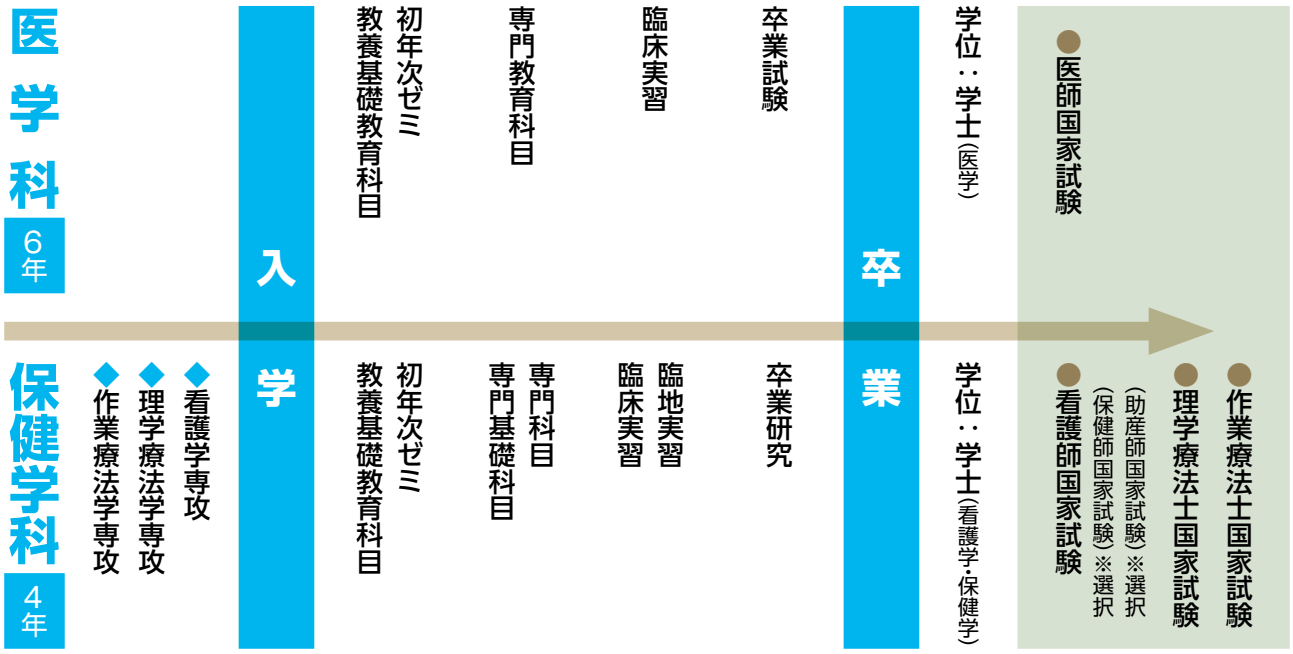
【医学科】

医療に関する幅広い専門知識と高度な技術を身につけた人材を養成します。

【保健学科】

看護学・理学療法学・作業療法学の3専攻3講座を設けており、医療専門職（看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士）を養成します。

医学科	医学専攻の44講座と2つの臨床教育協力部門の教員が教育を担当する	
保健学科	専攻	教育担当組織
	看護学	●看護学講座 ●理学療法学講座 ●作業療法学講座
	理学療法学	
	作業療法学	



総合環境理工学部



応用化学生物学科応用化学コース

総合環境理工学部は3学科、8コースから構成され、理工学の基礎と応用を総合的に学び、科学技術の専門知識を身に付けるとともに、グリーン社会実現を目指した環境科学技術について理解を深めることができます。 2年次後期からコース配属を行い、各コースにて高い専門性に関する科目を少人数で学習します。 分野横断的な教育により、自らの専門性を活かしつつ、他者と共創して課題を解決できる能力を身に付けることにより、グリーン社会実現に貢献する現代社会で活躍できる人材を養成します。

学部の構成（3学科）

【応用化学生物学科】

人の健康の保護や環境の保全、および、環境にやさしい材料やグリーン社会を実現するプロセスの開発を目指し、化学と生物学の知識と技術を学びます。

●生物学コース

高度なバイオ技術で、健康と環境に貢献します。

●有機・高分子化学コース

緻密な有機合成技術の医薬・医療や資源リサイクルへの応用を学びます

●応用化学コース

脱炭素社会の実現に寄与する高度な化学プロセス技術を学びます。

【環境数物科学科】

数理科学、地球環境学、マテリアル科学、エレクトロニクス、いずれかの分野の深い専門知識だけでなく、幅広い知識と学際知識を基礎として自然環境保全とグリーン社会の調和に貢献できる能力を身に付けます。

●数理科学・地球環境学コース

自然科学（数学、理論物理学、地球科学）を探求し、それらの共創の考え方を身に付けます。

●機能デバイス物理コース

新機能を持つ材料創成とエレクトロニクスの社会実装を学びます。

【社会システム工学科】

実学を尊重した人材育成と、社会から要請される先進的な技術開発により、持続可能な地球環境と社会システムの構築を目指します。

●モビリティコース

次世代の航空機、鉄道、自動車、その他移動体など、新しいモビリティの開発を材料設計も含めて学びます。

●電気システムコース

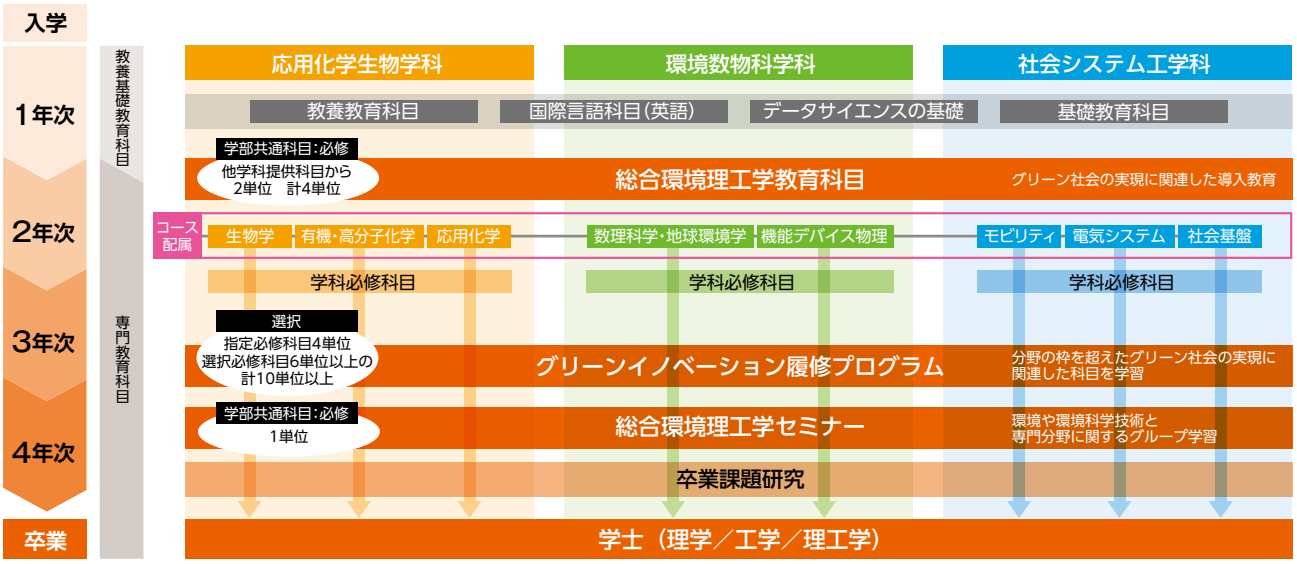
モビリティの電動化、再生可能エネルギーの導入、蓄電装置など、持続可能なエネルギーシステムの構築を学びます。

●社会基盤コース

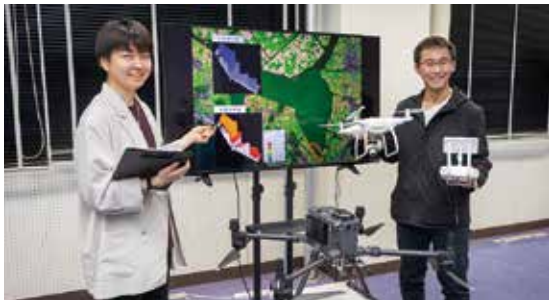
道路や橋などの社会インフラの強靭化と交通システムの高度化などで、持続可能な地域社会の基盤整備を学びます。



環境数物科学科機能デバイス物理コース



情報データ科学部



［人間情報関連研究］ドローンで空撮した八郎湖の様子と水質分布解析

情報データ科学部は、情報学とデータサイエンスを体系的に学び、身に付けた情報技術の知識とデータ解析スキルを活用して諸課題の解決を図り、新たな価値を創造し実装することができる「デジタル人材」を養成します。 情報・データサイエンスの応用分野・研究対象は、人間情報、データサイエンスの情報関連分野のみならず、人間生活の支援を行うロボット分野を内包する特色ある情報系学部です。 高等学校での学びの文系・理系を問わず受入れ、情報技術・データサイエンスを、自身の得意とする領域で活用し、デジタル社会の構築に貢献できる人材を育成します。

学部の構成（1学科）

【情報データ科学科】

本学部は「情報データ科学科」の1学科編成であり、情報学・データサイエンスを専門として身に付けられる教育課程には、以下の3つの学びの特色があります。

1. 情報学・データサイエンスの体系的な学び※1

情報学に関するコンピュータサイエンスやネットワーク関連科目、さらに、データサイエンスに関する科目等を、数学や英語等を基礎として体系的に学ぶことができます。

2. アントレプレナーシップの養成※2

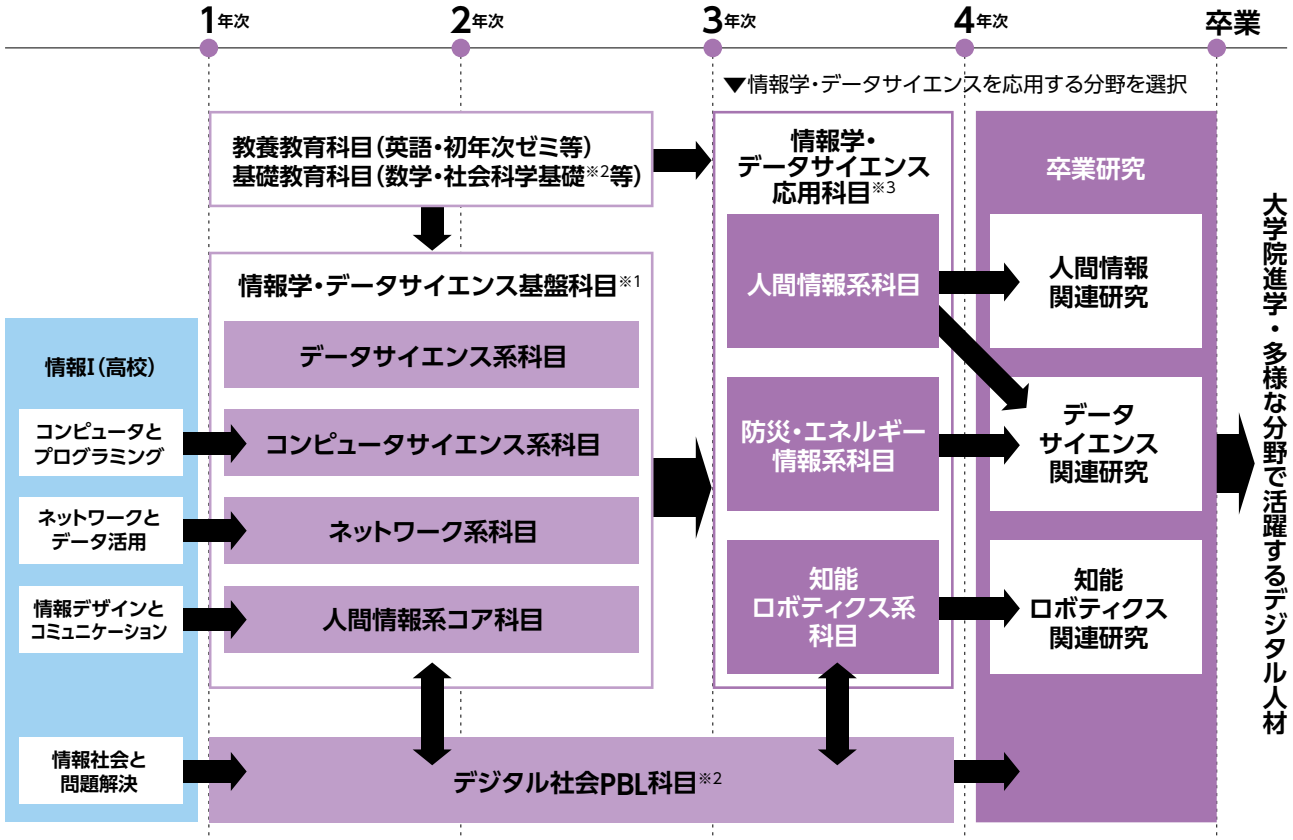
アントレプレナーシップは、急激な社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出す精神です。 本学部では、この素養を身に付けるため、基礎教育科目では、数学に加えて、卒業後、社会に出てから必要になる「デジタル社会と企業経営基礎」、「e-ビジネス基礎」等の社会科学の基礎を学び、さらに、デジタル社会PBL（Project Based Learning）科目における課題解決型授業で実践力を養います。

3. 情報学・データサイエンスを応用する分野に関する教育※3

人を中心とする情報技術に関する「人間情報系」、安心・安全な地域づくりに関する「防災・エネルギー情報系」、人間の日常生活における動作支援に関する「知能ロボティクス系」の3つの分野から希望する科目を選択して学ぶことができます。



［人間情報関連研究］高齢者等の運転能力を検査する装置の開発



図：カリキュラムの概要

大学院

国際資源学研究科

国際資源学研究科は、地球規模の課題となった資源問題の解決を目指し、資源地球科学分野および資源開発環境学分野に関する高度な知識と専門性に裏付けられた最先端の教育・研究を進め、地球科学から資源開発、環境保全に至る広範な知識を修得し、グローバルリーダーとして活躍できる人材を養成します。



博士前期課程
資源地球科学専攻 資源開発環境学専攻
博士後期課程
資源学専攻

教育学研究科

教育学研究科は、理論と実践の往還を通じて現場の課題を解決し、実践知の継承と創造に取り組む意欲と高度な力量を有する初等中等教員の養成と、教員や学校等を支援して地域の発展に貢献できる高度専門職業人の養成を目的としています。本研究科には、教職実践専攻（教職大学院）と心理教育実践専攻（修士課程）の2専攻があります。



教職大学院（専門職学位課程）	
教職実践専攻	学校マネジメントコース カリキュラム・授業開発コース 発達教育・特別支援教育コース
修士課程	
心理教育実践専攻	臨床心理学コース

医学系研究科

医学系研究科は、人類の健康・福祉の発展に寄与する医学・医療・生命科学の最先端研究を推進できる国際的視野を備えた優れた研究者・高度専門医療人を育成することを目的としています。



修士課程		
医科学専攻		
博士前期課程・博士後期課程		
保健学専攻	博士前期課程	看護学領域 リハビリテーション科学領域
	博士後期課程	生涯発達・健康支援看護学分野 生活機能・健康行動支援科学分野
博士課程		
医学専攻	病態制御医学系　腫瘍制御医学系　機能展開医学系 社会環境医学系　臨床教育協力部門	

理工学研究科

理工学研究科では、各専門分野を体系的に学び、深い知識を習得した上で周辺分野と学際的な連携を積極的に進め、新たな応用を追求し新しい価値を創出する総合的能力を身に付け、グローバルな視野とともに地域貢献への強い想いを持った人材を育成します。様々な分野の概念や手法を統合してまだ誰も形にしたことのないイノベーションを追い求める人材を育成する修士・博士課程教育を実施します。



博士前期課程	
生命科学専攻	生命科学コース
物質科学専攻	応用化学コース　材料理工学コース
数理・電気電子情報学専攻	数理科学コース　電気電子工学コース 人間情報工学コース
システムデザイン工学専攻	機械工学コース　土木環境工学コース
共同サステナブル工学専攻	エレクトロモビリティコース 社会環境システムコース
博士後期課程	
総合理工学専攻	生命科学領域　物質科学領域 数理・電気電子情報学領域 システムデザイン工学領域

先進ヘルスケア工学院

先進ヘルスケア工学院は、ヒトの健康寿命の延伸や病気の予防、診断、治療、予後までの過程を、医学と工学を融合させて科学する教育・研究組織です。学生は、講義に加え、病院や介護施設等における実習を通じて経験を積み重ねながら、新しいヘルスケア・医療機器の研究開発に携わることができ、超高齢社会で活躍する人材として育成しています。



修士課程	
先進ヘルスケア工学院	検査・診断支援領域 運動・治療支援領域

大学施設

未来研究統括機構

Akita University Future Cooperative Research Organization

未来研究統括機構は、令和7年4月に設置された全学的研究推進の中核組織です。 研究支援オフィス、重点研究ラボ、研究推進施設を三本柱とし、研究戦略の立案、資源配分、成果の社会実装を横断的に統括。 資源循環、再生可能エネルギー、医理工連携、新素材・機能性材料などの重点分野を発展させるとともに、産学連携、知的財産、臨床研究支援、外部資金獲得支援を強化し、研究力向上と地域・社会への貢献を担う組織です。

○研究支援オフィス

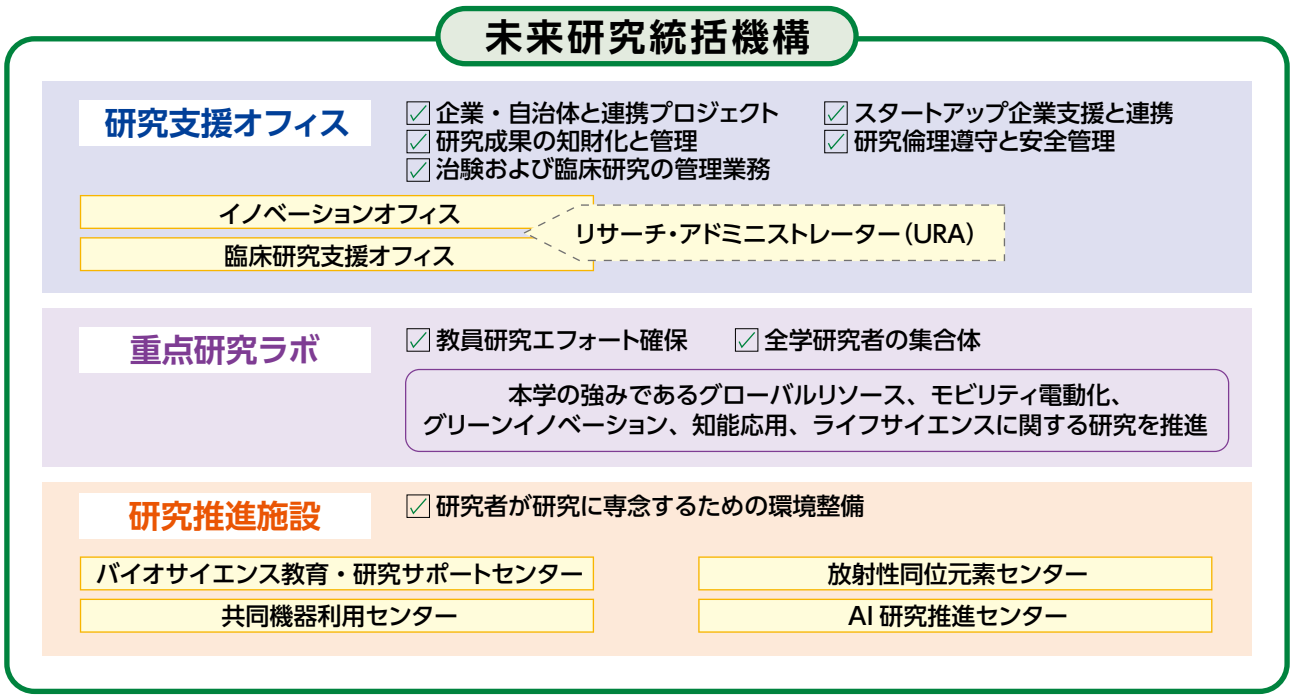
イノベーションオフィスと臨床研究支援オフィスで構成され、URAを中核とする多角的な研究支援体制を担う組織です。外部資金申請支援、知的財産管理、スタートアップ支援、研究倫理対応を行うほか、産学連携や研究コンプライアンス、治験・臨床研究のコーディネート、高度な研究支援を一体的に推進します。

○重点研究ラボ

秋田大学の特色ある研究分野を戦略的に推進する中核的研究組織です。 資源循環・エネルギー、電動化技術、再生可能エネルギー、AI・スマートシステム、医理工連携・生体医療の各領域において、独創的な研究活動や異分野融合による学術領域の新たな発展を目指し、研究基盤の更なる活性化を目的としています。

○研究推進施設

全学の研究基盤を支える重要な組織群です。共同機器利用センターをはじめ、先端機器の共用化と専門的技術支援体制を整備し、研究効率の向上と高度化を推進します。 学内研究者の円滑な研究遂行を支えるとともに、学外も含めた支援体制の充実を図り、研究力強化に資する基盤です。



地域共創機構

Regional Co-Creation Organization

地域共創機構は、地方創生の拠点として、地域との協働による地域振興策の取組及び地域の産業を成長させる研究を推進し、地域を担う人材育成、地域の産業振興と活性化に貢献するとともに、本学の教育研究機能の充実を図ることを目的として令和7年4月に設置されました。 リカレント教育部門、地域協働部門、地域防災減災部門の3部門から構成され、自治体や企業、教育機関との連携を通じ、地域の持続的発展と大学の社会的役割の強化を担う組織です。



リカレント教育部門　フォーラム

◯リカレント教育部門

秋田リカレント教育プラットフォーム（AREP）を軸に、社会人の学び直しや企業の人材育成を担う部門です。 県内企業等と連携したDX人材育成の実績を基盤に、令和7年度に地域人材育成基盤を整備しました。令和8年度にはオンライン・対面併用による講座開講やデジタルバッジ導入を通じ、その基盤を一層発展させる展開です。

◯地域協働部門

自治体や地域団体と連携し、大学の教育・研究成果を地域社会へ還元する部門です。代表的取組であるメディカル･サイエンスカフェでは、医学・健康に関する話題を学部横断的に提供し、県民との知的交流の機会を創出します。 大学の専門知を地域の健康資源として生かし、地域と大学をつなぐ共創の実践拠点です。

◯地域防災減災部門

部門員として全学部から教員が参画し、地域の実情に即した防災・減災対策に資する活動に取り組む部門です。 防災･減災に関する調査、研究及び教育活動を展開し、地域住民を対象とした防災教育の普及・啓発を推進することにより、地域の防災力向上に貢献していきます。



地域防災減災部門
防災サイエンスカフェ



地域協働部門
メディカル・サイエンスカフェ

未来人材共創機構 Institute for Future Talent Development

未来人材共創機構は、本学の理念及び教育・研究の目的に沿って、学部から博士課程までの一体的な教育体制を構築するとともに、教育・研究活動を推進し、地方創生やイノベーションを担う高度専門人材の育成と地域定着を目的として設置されました。

◯高等教育共創連携部門

教養基礎教育及び数理・データサイエンス・AI教育の共通化、専門教育の単位互換調整、異分野学生による共同PBR・多階層共修PBL、アントレプレナーシップ教育等学内外の諸組織や地域社会との教育連携、高大接続教育の推進に関する取り組みを行います。

◯先進教育支援部門

教育内容、教育方法等全学共通の教育課題に対する研究・開発・評価、大学教育の実施・運営、教育にかかるFD活動、学修成果等における評価等先進教育の推進に関する取り組みを行います。

◯グローバル展開推進部門

秋田大学国際戦略に基づき、外国人留学生の受入と支援、日本人学生の海外留学促進、国際交流推進に関する取り組みを行います。 また、地域の国際化支援や海外アルムナイの構築を通じて、本学のグローバル展開を総合的に推進します。



韓国語カフェ集合写真

◯地域人材定着・キャリア支援部門

学生のキャリア形成を支援するとともに、就職活動のサポートを行っています。具体的には、学生の就職先の開拓や情報分析･提供、インターンシップの支援、各学部・研究科との連絡調整を通じた就職支援の推進、企業クロスアポイントメント教員の発掘、さらに外国人留学生の地域定着を促進する施策に関する取り組みを行います。

◯アドミッション部門

全学的な入試改革の立案・調整、入試業務全般の実施、入学者の入試データの分析および入学者選抜方法の研究開発を行うとともに、オープンキャンパスなどの入試広報の企画・立案を通じて志願者確保に向けた取り組みを行います。

◯学生ライフサポート部門

学生相談やメンタルヘルスの支援をはじめ、入学料や授業料等の免除や徴収猶予、奨学金の手配、学生寮の管理など、学生生活をサポートする各種施策を行っています。 また、課外活動団体や学生の行事・研修会へのサポート、課外活動施設の管理など、学生が充実した学びと活動を行える環境づくりを支援します。

◯教職キャリア支援センター

全学的な教職課程の管理により、教職課程の自己点検･評価を実施、法定事項の公表とともに、適切な課程運営を行います。 また、学校教員等への研修提供について、主体的な学びのニーズに応じた研修機会となるよう企画・実施します。







オープンキャンパスの様子

学内共同教育研究施設 University Common Use Facilities for Education and Research



情報統括センター

【設備等】

●教育用PC(約400台):PC実習室101,102、PC実習室A/B、本道PC実習室、中央図書館、医学図書館

●情報サービス:Webメール、各種クラウドサービス、セキュリティ対策ソフト、計算用ソフトウェア、仮想サーバホスティング

●情報ネットワーク
有線LAN(フロアスイッチまで1～4Gbps)、キャンパスWi-Fi、学外接続ネットワーク(20Gbps)



環境安全センター

【設備等】

●無機系廃液－フェライト化処理、有機系廃液／有害固形廃棄物－噴霧燃焼／焼却処理、水銀・シアン系廃液－酸化分解・吸着処理、フッ素・リン酸系廃液－石灰化処理、
COD廃液－フェントン処理



電動化システム共同研究センター

【設置目的等】

産学官共同による航空機をはじめとする電動化システムの研究開発を推進させ、企業・大学・学生の起業家精神を喚起する産業人材を育成することで、若者に夢を与え、高度人材が活躍することができる創造的将来産業を創出し、地域の持続的発展と活力ある地域社会の実現に寄与することを目的としています。

センター Centers for Education and Research

	設置目的等
評価・IRセンター	● 秋田大学における自己点検・評価活動とその改善努力の支援 ● 評価とそのシステムについての研究・開発 ● 学内外の各種情報の活用・分析

技術組織 Technological Organization

	設置目的等
総合技術部	● 教育研究活動の技術支援を全学的に推進 ● 技術系職員が持つ専門技術を本学の共通の財産として継承・発展させ、その能力及び資質等の向上を図るとともに優れた人材を確保

附属図書館 University Library


中央図書館(正面)

附属図書館は、手形キャンパスにある中央図書館(愛称：DOWA×秋田大学中央図書館)と、本道キャンパスにある医学図書館からなり、図書・雑誌・視聴覚資料・電子情報等の学術資料の体系的な収集管理と提供を行っています。

●蔵書冊数　中央図書館：435千冊　医学図書館：111千冊

〈開館時間〉

区　分	授業期間	長期休業期間
平　日	8:30～22:00	8:30～17:00
土・日・祝	12:00～18:00	休　館

※開館時間を変更する場合があります。

図書館では資料の閲覧・貸出のほか、図書館ホームページを起点として、電子ブック・電子ジャーナル・データベース等の様々な学術資源を提供し、学生・教職員の学習・教育・研究を支援しています。

〈図書館 HP で提供している機能〉

●蔵書検索
●資料の予約・延長
●学外文献取り寄せ
●購入リクエスト
●オンラインレファレンス

また、本学が所蔵する鉱山資料・貴重資料をデジタル化し、Web ページで広く一般に公開しています。秋田大学学術情報リポジトリにより、学内研究者による研究成果の発信も行っています。


中央図書館閲覧フロア



特別コレクション。
18世紀に出版された
シェイクスピア全集等を
所蔵しています


中央図書館コモンズ


医学図書館コモンズ



鉱山絵図絵巻デジタルギャラリー(https://archive.keiyou.jp/akitaunivda)

●詳細についてのお問い合わせは
〈中央図書館・利用サービス担当〉
TEL.018-889-2279　E-mail : libriyo@jimu.akita-u.ac.jp
〈医学図書館〉
TEL.018-884-6052　E-mail : ibun@jimu.akita-u.ac.jp

〈附属図書館ホームページ〉
https://www.lib.akita-u.ac.jp/top/

医学部附属病院

University Hospital



医学部附属病院(正面)

医学部附属病院は、教育研究施設であるとともに、地域における医療機関の中核として各専門分野にわたる豊富な知識と最新の医療機器等による診療機能を駆使する医療機関であり、平成６年には特定機能病院として承認を受け、地域に対する指導的役割を担う病院として、今後なお一層地域社会への貢献を行います。

また、患者にとって安心できる医療環境の下で、良質で高度な医療を適切に提供することをとおして、優れた医療人の育成と医学研究の進歩のため積極的に役割を果たすとともに、地域医療・保健活動の中心としての役割を担い、さらに国際的にも貢献できるよう努めます。



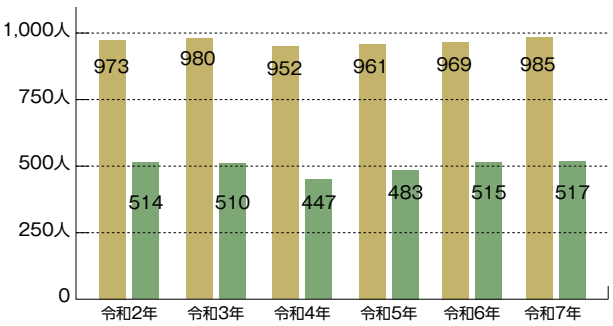
ヘリポート及び立体駐車場

〈診療科別入院及び外来患者数〉

令和7年度

区　分	入　院		外　来	
	延患者数	一日当平均患者数	延患者数	一日当平均患者数
消化器内科(漢方・総診)	11,417	31	17,495	72
脳神経内科	1,466	4	4,198	17
循環器内科	11,112	30	8,213	34
呼吸器内科	6,114	17	5,688	23
血液内科	11,005	30	5,726	23
腎臓内科	1,235	3	2,643	11
リウマチ科	2,053	6	7,660	31
糖尿病・内分泌内科	3,034	8	13,535	56
老年内科	0	0	0	0
消化器外科(緩和ケア)	6,845	19	3,608	15
呼吸器外科	6,352	17	3,545	15
食道外科	6,252	17	2,160	9
乳腺・内分泌外科	2,337	6	8,286	34
心臓血管外科	9,597	26	1,963	8
脳神経外科	9,803	27	4,600	19
小児外科	1,037	3	1,837	8
小児科	8,767	24	8,266	34
産科	5,178	14	4,055	17
婦人科	6,313	17	12,495	52
精神科	8,781	24	14,190	59
整形外科	14,596	40	15,998	66
皮膚科	5,080	14	18,776	78
形成外科	787	2	1,655	7
泌尿器科	13,479	37	15,740	65
眼科	7,782	21	15,082	62
耳鼻咽喉科	11,307	31	12,996	54
放射線診断科	12	0	549	2
放射線治療科	2,441	7	7,457	31
麻酔科	0	0	1,156	5
リハビリテーション科	0	0	0	0
腫瘍内科	5,761	16	4,064	17
救急科	5,282	14	2,455	10
病理診断科	0	0	0	0
歯科口腔外科	3,369	9	12,582	52
高齢者臨床検査科	0	0	606	3
合　計	188,594	517	239,279	985

〈年度別１日平均患者数〉



〈中央診療施設等〉

●中央検査部　●中央手術部　●中央放射線部
●中央材料部　●集中治療部　●高度救命救急センター
●輸血細胞治療・移植再生医療センター
●リハビリテーション部　●医療情報部
●血液浄化療法部　●中央病歴部
●周産母子センター　●病理部　●総合診療部
●臨床工学センター　●移植検査センター
●総合臨床教育研修センター
●内視鏡・超音波センター　●遺伝子医療部
●腫瘍情報センター
●地域医療患者支援センター・がん相談支援センター
●化学療法部　●緩和ケアセンター
●栄養管理部　●肝疾患相談センター
●腎疾患先端医療センター　●総合診療医センター
●脳卒中・心臓病等総合支援センター
●認知症医療センター　●がんゲノム診療センター
●NP室　●医療DXセンター

●医療安全管理部　●感染制御部　●薬剤部　●看護部

国際資源学研究科附属鉱業博物館

Mineral Industry Museum







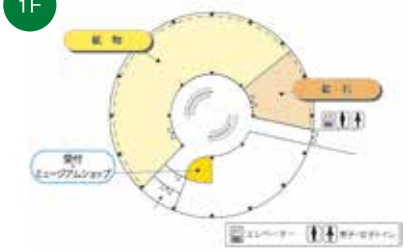


鉱業博物館は、秋田大学の研究活動において収集された、地球と資源に関する資料や標本を展示・保管している国際資源学研究科の附属施設です。

その沿革は、鉱山技術者養成のため1910年に設立された秋田鉱山専門学校の列品室にはじまります。その後、新制大学発足当時の鉱山博物館を経て1961年に現在の建物が建設され、鉱業博物館となりました。

常時公開されている展示棟では、様々な鉱物・鉱石・岩石・化石を見学でき、地球の歴史と資源の生成について学ぶことができます。また、鉱山機械の実機や精密模型を用いて、資源開発の流れと鉱山技術をわかりやすく解説しています。また、特別展や開放講座を通して、最新の研究や幅広い学術分野の成果を紹介しています。

1F





1階は、鉱物と鉱石を展示しています。ここに展示された標本は秋田鉱山専門学校設立以来のスタッフや学生、OB/OGらが収集したり、鉱山会社から寄贈された標本が母体になっています。国内最大規模の約500種2200点におよぶ貴重な標本を見ることができます。

2F





2階は隕石、岩石、地層、化石の標本を展示しています。「太陽系の中の地球」「岩石」「地球表層の諸現象」「秋田の生い立ち」「地球生命史」の5つの展示コーナーがあります。私たちの地球はどのような物質からできていて、どのような現象が起きていたのか、生命はいつごろ誕生しどのように進化したのかについて、多数の標本とパネル、そしてデジタルコンテンツを利用して読み解くことができます。

3F





3階は、「資源開発」についての展示です。資源の開発技術は、多岐にわたっていますので、当館では、資源開発の流れを「探鉱」「採鉱・採油」「選鉱」「製錬」の4つの工程に分類し、鉱物の探査から金属の製造まで、それぞれを独立したコーナーとして展示しています。この他にも、「鉱物資源の分布」「鉱山の保安技術」「自然エネルギー」「秋田の鉱山史」の展示を設け、鉱山技術の全容とその変遷が学べるようになっています。

〈ご利用案内〉
- ●開館時間：9：00～16：00
- ●休館日：年末年始（12月26日～翌年1月5日）
  12月～2月の日曜日と祝日
- ●入館料：大人100円／高校生以下無料
- ●無料館内案内：サイエンスボランティアによる館内案内を行っています。（一週間前まで要予約）



Googleストリートビューサービスにて鉱業博物館内を公開しています。展示棟1階から3階までを、360度のパノラマ写真で見渡せるようになりました。パソコンやスマートフォンの画面から簡単に見ることができますので、館内のバーチャル体験や、ご見学前の下見などにご活用ください。Googleマップで、「鉱業博物館」と検索していただくか、こちらの二次元バーコードからご覧いただくことができます。

附属学校園及び教育研究施設等

Affiliated School and Facilities for Education and Research

令和8年5月1日現在


附属中学校

区　分		総定員	学級数	現員						
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
附属幼稚園	3年保育	96	4	〈3歳児〉10		〈4歳児〉12		〈5歳児〉15		37
附属小学校		576	18	75	85	88	91	96	92	527
附属中学校		384	12	128	128	127	―			383
附属特別支援学校	小学部	18	3	6		6		5		17
	中学部	18	3	6	6	6	―			18
	高等部	24	3	9	9	9	―			27

〈教育文化学部〉
附属学校園



〈教育文化学部〉
附属教職高度化センター

【施設目的】
教員の資質向上と教員養成の高度化、教職に関する理論的実践的研究、臨床心理学的研究

【研究部門等】　教職研究部門、教育実践研究部門、教員育成連携支援部門、臨床心理学部門、教職キャリア支援室、県総合教育センター・市教育研究所連携推進室、臨床心理相談室

〈国際資源学研究科〉
附属鉱業博物館

【施設目的】
●鉱業に関する教育、研究及び調査を行います。
●鉱業関係の博物館資料の収集、保管及び展示

●標本資料／約20,000点
●公開標本／約3,300点

〈医学部〉
附属病院

【施設目的】
患者の診療を通じて医学の教育及び研究を行う。

●診療科／35科 ●病床数／600床



〈医学部〉
附属病院シミュレーション教育センター

【施設目的】
秋田県内医療人の更なるスキルアップと質の高い専門医の養成に繋げ、医学シミュレーション教育が秋田県の医療再生の礎となるよう、秋田県と秋田大学の協同によって開設

●1階：TVセミナー室　●2階：緊急処置ラボ、臨床基本手技ラボ　●3階：外科研修室、外科手技ラボ、産婦人科手技ラボ、臨床専門手技ラボ

〈医学系研究科〉
附属ウェルビーイング創造センター

【施設目的】
医療の面からウェルビーイングをもたらすための知の拠点として、さまざまな健康関連の問題を調査・研究・分析し、その成果に基づいた対策を構築することで社会に貢献することを目的とします。

【センター活動内容】
勤労者が安心・安全に働くための職場環境づくり、秋田県におけるロコモ・フレイルの現状分析、少年スポーツ傷害の予防対策、地域の医療職ならびに福祉領域専門職を対象とした研修会の開催など多岐にわたります。

〈医学系研究科〉
附属デジタル医学・医療教育推進センター

【施設目的】
学内各分野および県内の教育協力病院が連携して先進的なデジタル技術を活用した医学教育を共有するネットワークを構築し、将来に向けて卒前・卒後教育をシームレスに推進していくことで、医療の質を向上することを目的とします。

【センター活動内容】
各分野からのセンター委員とともにデジタル技術を駆使した医学・医療教育（講座・演習・評価）教材の作成やその活用をサポートし、次世代の理想的な医学・医療教育体制を構築します。

〈医学系研究科〉
附属臨床研究医養成センター

【施設目的】
医学科学生をSA（Student Assistant）として雇用し、早期からの研究機会の創出、研究マンパワー強化による研究活動の活性化・効率化を図るとともに、臨床と研究を両立できる臨床研究医の養成など、教育、研究活動のコーディネートを担うことを目的とします。

【センター活動内容】
SA学生の学会発表、論文発表の支援・推進を行うとともに、SA活動の成果発信の機会の一つとして「リサーチドクター養成キャンプ」を毎年開催しています。

〈医学系研究科〉
附属感染制御総合センター

【施設目的】
感染症に関する臨床と基礎研究の融合と交流レベルを高め、臨床・研究の両面での活動成果を世界に発信するとともに、秋田県等の地域の感染症予防と対応、感染症対応医療人材及び感染症研究者の育成等、感染症の臨床と臨床・基礎研究をリードする活動拠点とすることを目的とします。

【センター活動内容】
「感染統括制御」「感染疫学」「感染分子病態研究」の３部門からなり、各部門ともに将来の感染症予防と対応、新規制御戦略や新規治療薬の開発につながる臨床と臨床・基礎研究を統合的に進めています。

〈医学系研究科〉
附属高齢者医療先端研究センター

【施設目的】
高齢者医療等に関する体制充実を図ることにより、認知症及び地域社会学の知見を踏まえた高齢化社会の学際的研究と高齢者医療の先端的研究を推進し、地域医療の向上と長寿・健康教育研究の発展に寄与することを目的とします。

【センター活動内容】
秋田県、秋田県医師会、そして秋田大学による三位一体の取り組みとして、高齢者のための健康づくりを推進、高齢者医療の原因・治療・予防の研究を行っています。



〈理工学研究科〉
附属クロスオーバー教育創成センター

【施設目的】
理工系実践教育に関するさまざまな新しい取り組みを行い、学生及び教員双方の質の向上に貢献します。

【センター活動内容】
留学相談、子どものものづくり教室など

福利厚生施設等 Welfare Facilities

施　設	主な設備内容
保健管理センター	胸部X線装置、健診用機器（身長体重計、血圧計、視力計）、心電計、体組成計、聴力検査室、診察室、処置室、相談室2室、休養室（ベッド3床）、多目的WC
大学会館 TDK Venture Spirit Hall 〈手形キャンパス〉	●1階／管理事務室、食堂、厨房、食品・弁当コーナー、アメニティーコーナー、キャリアステーション、自販機コーナー、イベントホール ●2階／研修室（1・2・3）、和室（あじさい・りんどう）、会議室、書籍・文具・旅行コーナー
本道会館（メディココ） 〈本道キャンパス〉	●1階／食堂、厨房、売店、事務室、倉庫 ●2階／談話室、部室、小会議室、物品庫
学　生　寮	区　分 / 手形寮〈女子〉（留学生除く） / 本道寮〈女子〉（留学生除く） / 西谷地寮〈男子〉（留学生含む） 建物延面積 / 746㎡ / 1,076㎡ / 3,171㎡ 室　数 / 40室 / 31室 / 130室 収容定員 / 40人 / 31人 / 130人
国際交流会館	●居　　室／単身室（外国人留学生用28室、外国人研究者用5室）、家族室（外国人研究者用2室）、夫婦室（外国人研究者用3室） ●管理関係／管理室、設備室、倉庫 ●共用関係／多目的ホール、ミーティングルーム、洗濯室
留学生会館	●居室／単身室（27室）、夫婦室（3室） ●管理関係／事務室、機械室、倉庫 ●共用関係／談話室、和室、洗濯室


手形キャンパス内の大学会館


西谷地寮


国際交流会館


留学生会館

体育施設 Sports Facilities

施　設	面　積(㎡)			備　考
	手形地区	本道地区	保戸野地区	
陸上競技場	24,637	20,909	ー	400m／6コース、メイン／8コース
野球場	20,378		ー	ー
球技場	陸上競技場と併用	陸上競技場と併用	ー	サッカー、ラグビー(本道地区はサッカー、ラグビー、準硬式野球)
ハンドボール場		ー	ー	ー
大体育館	2,591	1,079	3,588	バスケットボール、ハンドボール、バレーボール、バドミントン　等 (本道地区はバレーボール、バドミントン、バスケットボール、卓球、フットサル、ハンドボール)
小体育館	750	ー	ー	卓球、空手道、ダンス　等
柔剣道場(武道場)	ー	ー	373	柔道、剣道
弓道場	149	ー	ー	的場(44㎡)は含まない
テニスコート	(5面)3,238	(5面)3,614	ー	ー
プール(25m)	800	ー	ー	7コース
運動場	ー	ー	14,923	ー


陸上競技場(手形地区)


体育館(手形地区)

インフォメーションセンター Information Center

秋田大学の教育・研究の取り組みや、常設展示として成田為三・南木佳士など著名な卒業生の業績や作品等を展示・紹介。また、学生や教職員による企画展も開催しています。

〈入館案内〉

●開館時間／10:30～17:00　●開館日／平日のみ(入館無料)


インフォメーションセンター外観


オープンスペースの様子

〈主な常設展示〉



成田　為三（なりた　ためぞう）

秋田県師範学校(教育文化学部の前身)出身で、「浜辺の歌」「秋田県民歌」など、300曲以上の優れた作品を世に残しています。本格的に作曲の勉強をしたのは、秋田県師範学校時代であることが研究により明らかにされています。



南木　佳士（なぎ　けいし）

秋田大学医学部の第二期生である彼は、長野県佐久総合病院で医師を続けながら、作家活動を行っています。作品には、新設間もない秋田大学医学部を舞台に、医学部在学の4人の主人公が抱える悩みや葛藤などの青春群像を描いた「医学生」や、第100回芥川賞を受賞した「ダイヤモンドダスト」等があります。



松田　解子（まつだ　ときこ）

秋田県女子師範学校(教育文化学部の前身)出身の小説家で、数多くの作品を世に残しています。1966年、実母をモデルに荒川鉱山に生きた人々を描いた長編『おりん口伝』の連載を始め、この作品で第8回田村俊子賞(1968年)等を受賞しました。



阿部　雅龍（あべ　まさたつ）

工学資源学部出身の"夢を追う男"冒険家として活躍。大学在学時から自転車での南米縦断やアマゾン川いかだ下りなど、数々の冒険を成し遂げてきました。秋田県出身の南極探検家白瀬矗(しらせのぶ)中尉の足跡を辿る南極点到達を目指しました。

サテライト Satellite Office

令和8年度からは、これまでの「秋田大学分校」を再編し、新たに「秋田大学サテライト」を設置することとなりました。本学の教育研究資源を活用して地域の活性化に貢献することを目的として、関係自治体と協力しながら、幅広い分野で地域社会との連携を一層推進してまいります。

横手サテライト

〈平成21年8月5日「横手分校」として開設〉

●所在地
〒013-0045　横手市南町13-1
横手市民会館内

北秋田サテライト

〈平成22年11月17日「北秋田分校」として開設〉

●所在地
〒018-3312 北秋田市花園町19-1
北秋田市役所内

男鹿なまはげサテライト

〈平成25年9月30日「男鹿なまはげ分校」として開設〉

●所在地
〒010-0595　男鹿市船川港船川字泉台66-1
男鹿市役所内

歴代学長



佐野 秀之助
（昭25.5.6～昭30.12.24）



渡邊 萬次郎
（昭31.3.1～昭41.2.28）



伊藤 泰一
（昭41.3.1～昭44.6.9）



渡邊 武男
（昭46.2.23～昭51.2.22）



九嶋 勝司
（昭51.2.23～昭56.2.22）



梅津 良之
（昭56.2.23～昭61.2.22）



渡部 美種
（昭61.2.23～平3.2.22）



新野 直吉
（平3.2.23～平8.2.22）



徳田 弘
（平8.2.23～平13.2.22）



三浦 亮
（平13.2.23～平20.3.31）



吉村 昇
（平20.4.1～平26.3.31）



澤田 賢一
（平26.4.1～平28.3.1）



山本 文雄
（平28.4.1～令6.3.31）

事務取扱	劒木 亨弘 （昭24. 5.31～昭24. 7.30）	池田 謙三 （昭24. 7.31～昭25. 5. 5）	五十嵐 勇 （昭30.12.25～昭31.2.29）	藤島 主殿 （昭44.6.10～昭46.2.22）
学長代行	小川 信明 （平28. 3.2～平28. 3.31）			

学生の定員・現員

〈学　部〉

令和8年5月1日現在

学　部	学科・課程	入学定員	収容定員	現員 1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計
国際資源学部	国際資源学科	120	480	138	134	136	117			525
	小　計	120	480	138	134	136	117			525
教育文化学部	学校教育課程	110	440	114	119	122	109			464
	地域文化学科	80	360	87	90	119	103			399
	小　計	190	800	201	209	241	212			863
医 学 部	医 学 科	〈5〉124	[25]744	127	129	136	136	114	136	778
	保健学科	(14)106	[28]424	111	115	112	103			441
	小　計	〈5〉(14)230	[53]1,168	238	244	248	239	114	136	1,219
総合環境理工学部	応用化学生物学科	(2)100	200	116	94	0	0			210
	環境数物科学科	(2)90	180	110	80	0	0			190
	社会システム工学科	(8)125	250	145	112	0	0			257
	小　計	(12)315	630	371	286	0	0			657
理工学部	生命科学科	※1	90	1	1	46	43			91
	物質科学科		220	2	14	127	109			252
	数理・電気電子情報学科		240	0	14	126	120			260
	システムデザイン工学科		240	2	17	126	124			269
	各学科共通		[24]							0
	小　計		790	5	46	425	396			872
情報データ科学部	情報データ科学科	100	200	114	99	0	0			213
	小　計	100	200	114	99	0	0			213
合　計		〈5〉(26)955	[77]4,068	1,067	1,018	1,050	964	114	136	4,349

【注】※1：令和7年度から学生募集停止

※(　)内の数は3年次編入学定員を表し、外数である。 ※〈　〉内の数は2年次編入学定員を表し、外数である。 ※入学定員・収容定員欄の[　]内の数は、編入学定員・収容定員を表し、外数である。

〈大学院〉

令和8年5月1日現在

研究科	専　攻	入学定員	収容定員	現員 博士前期課程 1年次	2年次	計
国際資源学研究科	資源地球科学専攻	17	34	26	20	46
	資源開発環境学専攻	23	46	34	30	64
	小　計	40	80	60	50	110
	専　攻	入学定員	収容定員	博士後期課程 1年次	2年次	3年次	計
	資源学専攻	10	30	15	13	16	44
計		50	110				154

研究科	専　攻	入学定員	収容定員	現員 専門職学位課程 1年次	2年次	計
教育学研究科	教職実践専攻	20	40	22	16	38
	専　攻	入学定員	収容定員	現員 修士課程 1年次	2年次	計
	心理教育実践専攻	6	12	7	8	15
合　計		26	52			53

研究科	専　攻	入学定員	収容定員	現員 修士課程 1年次	2年次	計
医学系研究科	医科学専攻	【3】5	【6】10	3	4	7
	専　攻	入学定員	収容定員	博士前期課程 1年次	2年次	計
	保健学専攻	12	24	19	12	31
	専　攻	入学定員	収容定員	博士後期課程 1年次	2年次	3年次	計
	保健学専攻	3	9	5	2	6	13
	専　攻	入学定員	収容定員	博士課程 1年次	2年次	3年次	4年次	合計
	医学専攻	30	120	30	32	30	92	184
計		【3】50	【6】163					235

※【 】内の数は、医学系研究科修士課程医科学専攻及び理工学研究科博士前期課程システムデザイン工学専攻の内数である。

研究科	専　攻	入学定員	収容定員	現員 博士前期課程 1年次	2年次	計
理工学研究科	生命科学専攻	15	30	26	21	47
	物質科学専攻	40	80	53	39	92
	数理・電気電子情報学専攻	45	90	50	46	96
	システムデザイン工学専攻	【7】32	【14】64	31	27	58
	共同サステナブル工学専攻	18	36	30	26	56
	共同ライフサイクルデザイン工学専攻	※2				
	小　計	【7】150	【14】300	190	159	349
	専　攻	入学定員	収容定員	博士後期課程 1年次	2年次	3年次	計
	総合理工学専攻	10	30	12	8	20	40
計		【7】160	【14】330				389

【注】※2：令和4年度から学生募集停止

※【 】内の数は、医学系研究科修士課程医科学専攻及び理工学研究科博士前期課程システムデザイン工学専攻の内数である。

研究科	専　攻	入学定員	収容定員	現員 修士課程 1年次	2年次	計
先進ヘルスケア工学院		【10】	【20】	7	10	17
計		【10】	【20】			17

※【 】内の数は、医学系研究科修士課程医科学専攻及び理工学研究科博士前期課程システムデザイン工学専攻の内数である。

合　計	【10】286	【20】655		848

※【 】内の数は、医学系研究科修士課程医科学専攻及び理工学研究科博士前期課程システムデザイン工学専攻の内数である。

入学志願者・入学状況

〈学　部〉

令和8年度

区　分	入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
		男	女	合計	男	女	合計	
国際資源学部	120	283	118	401	86	38	124	3.34
教育文化学部	190	321	406	727	85	115	200	3.83
医学部	230	482	696	1,178	96	137	233	5.12
総合環境理工学部	315	865	304	1,169	253	83	336	3.71
情報データ科学部	100	289	49	338	95	11	106	3.38

※外国人留学生を含まない（ただし、国際資源学部の外国人留学生特別入試及び私費外国人留学生入試、総合環境理工学部の私費外国人留学生入試による留学生は含む）。編入生は含まない。

〈大学院〉

令和8年度

区　分			入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
				男	女	合計	男	女	合計	
国際資源学研究科（博士前期課程）			40	47	15	62	37	15	52	1.55
国際資源学研究科（博士後期課程）			10	9	4	13	8	4	12	1.30
教育学研究科（専門職学位課程）			20	18	8	26	15	7	22	1.30
教育学研究科（修士課程）			6	8	9	17	1	6	7	2.83
医学系研究科	（修士課程）	医科学専攻	5※【3】	2	1	3	2	1	3	1.50
	（博士前期課程）	保健学専攻	12	12	16	28	8	11	19	2.33
	（博士後期課程）	保健学専攻	3	4	2	6	4	1	5	2.00
	（博士課程）	医学専攻	30	21	11	32	21	9	30	1.07
理工学研究科（博士前期課程）			150※【7】	181	32	213	157	27	184	1.49
理工学研究科（博士後期課程）			10	7	0	7	7	0	7	0.70
先進ヘルスケア工学院（修士課程）			※【10】	3	4	7	3	4	7	0.70

※国費外国人留学生、外国人留学生特別選抜を除く（ただし、国際資源学研究科、理工学研究科において、国費外国人留学生、外国人留学生特別選抜を含む）。
※先進ヘルスケアの定員10名：3名は医学系研究科修士課程医科学専攻5名の内数、7名は理工学研究科博士前期課程150名の内数

出身高校所在地別在学状況

※留学生、編入生、高等学校卒業程度認定試験合格者は含まない。

〈学生総数（学部学生）〉

令和8年5月1日現在

		人数	%
北海道		130	3.1%
東北 2,542 (61.3%)	青森	125	3.0%
	岩手	226	5.5%
	秋田	1,725	41.6%
	宮城	229	5.5%
	山形	151	3.6%
	福島	86	2.1%
関東		800	19.3%
中部		477	11.5%
近畿		124	3.0%
中国		16	0.4%
四国		16	0.4%
九州		39	0.9%
学生総数		4,144	

〈総合環境理工学部〉

令和8年5月1日現在

		人数	%
北海道		22	3.6%
東北 328 (53.7%)	青森	21	3.4%
	岩手	19	3.1%
	秋田	204	33.4%
	宮城	39	6.4%
	山形	25	4.1%
	福島	20	3.3%
関東		139	22.7%
中部		94	15.4%
近畿		18	2.9%
中国		3	0.5%
四国		2	0.3%
九州		5	0.8%
合計		611	

〈国際資源学部〉

令和8年5月1日現在

		人数	%
北海道		28	5.7%
東北 202 (41.5%)	青森	15	3.1%
	岩手	21	4.3%
	秋田	118	24.2%
	宮城	25	5.1%
	山形	16	3.3%
	福島	7	1.4%
関東		120	24.6%
中部		79	16.2%
近畿		29	6.0%
中国		4	0.8%
四国		5	1.0%
九州		20	4.1%
合計		487	

〈理工学部〉

令和8年5月1日現在

		人数	%
北海道		18	2.3%
東北 428 (53.8%)	青森	27	3.4%
	岩手	36	4.5%
	秋田	271	34.1%
	宮城	48	6.0%
	山形	22	2.8%
	福島	24	3.0%
関東		161	20.3%
中部		148	18.6%
近畿		26	3.3%
中国		0	0.0%
四国		6	0.8%
九州		8	1.0%
合計		795	

〈教育文化学部〉

令和8年5月1日現在

		人数	%
北海道		20	2.4%
東北 744 (87.8%)	青森	30	3.5%
	岩手	46	5.4%
	秋田	570	67.3%
	宮城	27	3.2%
	山形	49	5.8%
	福島	22	2.6%
関東		50	5.9%
中部		21	2.5%
近畿		6	0.7%
中国		5	0.6%
四国		0	0.0%
九州		1	0.1%
合計		847	

〈情報データ科学部〉

令和8年5月1日現在

		人数	%
北海道		4	1.9%
東北 136 (64.8%)	青森	7	3.3%
	岩手	9	4.3%
	秋田	101	48.1%
	宮城	10	4.8%
	山形	5	2.4%
	福島	4	1.9%
関東		41	19.5%
中部		24	11.4%
近畿		3	1.4%
中国		1	0.5%
四国		0	0.0%
九州		1	0.5%
合計		210	

〈医学部〉

令和8年5月1日現在

		人数	%
北海道		38	3.2%
東北 704 (59.0%)	青森	25	2.1%
	岩手	95	8.0%
	秋田	461	38.6%
	宮城	80	6.7%
	山形	34	2.8%
	福島	9	0.8%
関東		289	24.2%
中部		111	9.3%
近畿		42	3.5%
中国		3	0.3%
四国		3	0.3%
九州		4	0.3%
合計		1,194	

卒業者・修了者数

〈学部・大学院・専攻科〉

学部			大学院			専攻科	
区分	7年度	累計	区分	7年度	累計	区分	累計
国際資源学部	108	993	国際資源学研究科（博士前期課程）	58	384		
			国際資源学研究科（博士後期課程）	15	77		
教育文化学部	205	6,681	教育学研究科（修士課程）	7	929	教育専攻科	78
教育学部		14,519	教育学研究科（専門職学位課程）	18	180	特殊教育特別専攻科	212
医学部	225	7,425	医学系研究科（修士課程）	3	74		
			医学系研究科（博士前期課程）	15	192		
			医学系研究科（博士後期課程）	3	51		
			医学系研究科（博士課程）	25	385		
			医学研究科		791		
理工学部	387	3,558	理工学研究科（博士前期課程）	147	1,398	鉱山学専攻科	58
			理工学研究科（博士後期課程）	7	52		
工学資源学部		7,476	工学資源学研究科（博士前期課程）		2,022		
			工学資源学研究科（博士後期課程）		151		
鉱山学部		14,522	鉱山学研究科（修士課程）		1,270		
			鉱山学研究科（博士前期課程）		1,012		
			鉱山学研究科（博士後期課程）		123		
			先進ヘルスケア工学院	11	37		
合計	925	55,174	合計	309	9,098	合計	348

【注】※鉱山学専攻科…昭和40年3月廃止　※教育専攻科…平成元年3月廃止　※鉱山学研究科（修士課程）…平成9年3月廃止
※教育学部…平成10年4月教育文化学部に改組・改称　※鉱山学部…平成10年4月工学資源学部に改組・改称
※鉱山学研究科…平成14年4月工学資源学研究科に改組・改称　※特殊教育特別専攻科…平成20年3月廃止
※医学研究科…平成19年4月医学系研究科に改組・改称　※工学資源学部…平成26年4月理工学部に改組・改称
※工学資源学研究科…平成28年4月理工学研究科に改組・改称　※先進ヘルスケア工学院…令和3年4月新設

〈医療技術短期大学部〉

区分	看護学科	理学療法学科	作業療法学科
累計	1,015	246	254

【注】※医療技術短期大学部…平成19年3月廃止

学位授与数

区分		29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	累計
国際資源学研究科	修士(資源学)	4	8	4	3	4	8	13	15	22	81
	修士(理学)	8	12	17	11	14	16	17	16	13	124
	修士(工学)	12	14	33	17	18	18	19	25	23	179
	博士(資源学)			1	3	3	0	0	1	5	13
	博士(理学)			6	4	3	5	2	9	5	34
	博士(工学)		3	1	3	5	4	5	4	5	30
	博士(理学)(論文)			0	0	0	1	0	0	1	2
	小計	24	37	62	41	47	52	56	70	74	463
教育学研究科	修士(教育学)	7	4	4	5	3	5	5	5	7	929
	教職修士(専門職)	24	20	27	12	21	17	13	24	18	180
	小計	31	24	31	17	24	22	18	29	25	1,109
医学系研究科	修士(医科学)	2	1	2	0	0	2	1	2	3	37
	修士(看護学)	4	7	5	2	10	7	7	9	11	120
	修士(リハビリテーション科学)	7	5	4	6	11	5	5	3	4	109
	博士(保健学)(課程)	3	4	4	2	4	3	2	4	3	51
	博士(医学)(課程)	35	28	20	20	25	22	25	33	25	387
	博士(医学)(論文)	2	4	3	5	2	0	4	3	3	53
	小計	53	49	38	35	52	39	44	54	49	757
医学研究科	博士(医学)(課程)										806
	博士(医学)(論文)										574
	小計										1,380
理工学研究科	修士(理学)	9	20	21	28	40	33	33	23	28	236
	修士(理工学)	26	29	35	38	36	35	49	40	40	328
	修士(工学)	86	88	78	95	88	76	120	94	79	804
	博士(理学)	1	0	2	2	2	0	1	1	2	11
	博士(理工学)			3	1	2	3	1	0	1	11
	博士(工学)		1	4	1	4	1	3	12	4	30
	博士(理学)(論文)									1	1
	小計	122	138	143	165	172	148	207	170	155	1,421
工学資源学研究科	修士(工学)	6	1								1,927
	修士(資源学)	1	0								48
	修士(理学)										47
	博士(工学)(課程)	9	8	1	0	0	1	0	0		139
	博士(資源学)(課程)	1	3								9
	博士(理学)(課程)										3
	博士(工学)(論文)	1	0	0	0	0	0	0	0		12
	博士(資源学)(論文)	0	0								1
	博士(理学)(論文)										0
	小計	18	12	1	0	0	1	0	0	0	2,186
鉱山学研究科	修士(工学)										2,252
	修士(資源学)										30
	博士(工学)(課程)										117
	博士(資源学)(課程)										6
	博士(工学)(論文)										31
	小計										2,436
先進ヘルスケア工学院	修士(工学)						5	10	11	11	37
	小計						5	10	11	11	37
合計		248	260	275	258	295	267	335	334	314	9,789

卒業者等就職状況

令和8年5月1日現在（中途卒を含む）

区分		卒業者数	進学者数	就職者数	就職者数 県内	就職者数 県外	農林・水産業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス等	情報通信業	運輸・郵便業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	学術研究・専門・技術サービス業	宿泊・飲食業	医療・福祉	学校教育 教員 幼稚園	小学校	中学校	高等学校	高専・大学等	特別支援学校	その他（教員）	教員の合計	教員以外	教育学習支援業	複合サービス業	サービス業	公務員 国家	地方	公務員の合計	その他	その他	未就職者
学部	国際資源学部	108	47	54	3	51	1	7	14	6	9	3	0	1	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	4	4	2	4	3
学部	教育文化学部	205	19	175	87	88	0	0	2	3	0	12	4	5	12	1	2	3	3	2	27	21	6	0	10	2	68	4	0	0	8	12	35	47	1	11	0
学部	医学部	225	3	219	79	140	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	211	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	7	0	3	0
学部	理工学部	387	197	178	26	152	1	0	17	72	4	22	0	1	1	1	12	1	2	0	0	2	10	0	0	0	12	0	1	1	3	6	20	26	1	12	0
学部	小計	925	266	626	195	431	2	7	33	81	13	38	4	7	14	2	18	4	216	2	27	23	16	0	10	2	80	4	1	2	12	18	66	84	4	30	3
大学院	国際資源学研究科	73	11	56	1	55	0	10	7	7	10	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	3	0	0	1	10	1	11	0	6	0
大学院	教育学研究科	25	0	22	21	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	6	2	5	0	4	0	17	0	0	0	1	1	2	3	0	0	3
大学院	医学系研究科	46	0	45	33	12	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
大学院	理工学研究科	154	6	145	11	134	0	0	12	91	4	14	2	1	2	0	11	0	1	0	0	0	1	2	0	0	3	1	0	0	1	1	0	1	1	3	0
大学院	先進ヘルスケア	11	0	11	1	10	0	0	0	4	1	2	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大学院	小計	309	17	279	67	212	0	10	19	104	15	16	2	1	2	0	17	0	45	0	6	2	6	6	4	0	24	4	0	0	3	12	3	15	2	10	3
合計		1234	283	905	262	643	2	17	52	185	28	54	6	8	16	2	35	4	261	2	33	25	22	6	14	2	104	8	1	2	15	30	69	99	6	40	6

〈学　部〉

令和8年5月1日現在

国名	学部国別計	学部 国際資源学部 正規 国費	国際資源学部 正規 私費	国際資源学部 非正規 国費	国際資源学部 非正規 私費	教育文化学部 正規 国費	教育文化学部 正規 私費	教育文化学部 非正規 国費	教育文化学部 非正規 私費	医学部 正規 国費	医学部 正規 私費	医学部 非正規 国費	医学部 非正規 私費	理工学部 正規 国費	理工学部 正規 私費	理工学部 非正規 国費	理工学部 非正規 私費	総合環境理工学部 正規 国費	総合環境理工学部 正規 私費	総合環境理工学部 非正規 国費	総合環境理工学部 非正規 私費	情報データ科学部 正規 国費	情報データ科学部 正規 私費	情報データ科学部 非正規 国費	情報データ科学部 非正規 私費	小計 正規 国費	小計 正規 私費	小計 非正規 国費	小計 非正規 私費
インド																													
バングラデシュ																													
スリランカ	1																		1								1		
ミャンマー	1																		1 (1)								1 (1)		
タイ	4	3 (2)							1 (1)																	3 (2)			1 (1)
マレーシア	31	1	12 (7)						2 (1)					3 (1)	8 (4)			2	1				2			6 (1)	23 (11)		2 (1)
インドネシア	1				1																								1
フィリピン																													
韓国	19						2		7 (4)						6 (1)				4								12 (1)		7 (4)
モンゴル	19	11 (6)	1						1 (1)					3 (2)				2			1					16 (8)	1		2 (1)
ベトナム	19	2 (1)	1 (1)												13 (4)				2				1 (1)			2 (1)	17 (6)		
中国	64		1				4	1 (1)	7 (5)						19 (3)				31 (4)		1						55 (7)	1 (1)	8 (5)
ラオス																													
台湾	2								2 (1)																				2 (1)
シリア																													
イスラエル	1							1 (1)																				1 (1)	
アラブ首長国連邦																													
エジプト																													
マダガスカル																													
ケニア	2	2 (1)																								2 (1)			
タンザニア																													
コンゴ民主共和国																													
ナイジェリア																													
ガーナ																													
リベリア																													
ザンビア																													
コートジボワール																													
モロッコ																													
エチオピア																													
ジンバブエ	1	1																								1			
マラウイ																													
ナミビア																													
ボツワナ																													
モザンビーク																													
ジブチ																													
パプアニューギニア																													
メキシコ																													
チリ	1								1																				1
セントルシア																													
フィンランド	1								1 (1)																				1 (1)
フランス																													
ウクライナ	5		2 (1)					1 (1)	2 (2)																		2 (1)	1 (1)	2 (2)
ウズベキスタン																													
カザフスタン																													
キルギス																													
タジキスタン																													
計	172	20 (10)	17 (9)		1		6	3 (3)	24 (16)					6 (3)	46 (12)			4	40 (5)		2		3 (1)			30 (13)	112 (27)	3 (3)	27 (16)

※（ ）内は、女子学生数(内数)
※「国費」とは日本政府（文部科学省）奨学生を示し、大学推薦・大使館推薦・国内採用を含む。
※「非正規」とは、日研生・教研生・交換留学生（特別聴講学生/特別研究学生）・科目等履修生・研究生を指す。
※「私費」には、政府派遣留学生（マレーシア）を含む。

〈大学院〉

令和8年5月1日現在

国名	大学院																											
	大学院国別計	国際資源学研究科				教育学研究科				医学系研究科				理工学研究科				小計				合計						
		正規		非正規		正規		非正規		正規		非正規		正規		非正規		正規		非正規		正規			非正規			合計
		国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	小計	国費	私費	小計	
インド	2									1				1 (1)				2 (1)				2 (1)		2				2
バングラデシュ	2	1												1 (1)				2 (1)				2 (1)		2				2
スリランカ																							1	1				1
ミャンマー	3														3 (2)				3 (2)				4 (3)	4				4
タイ	3	1	2 (1)															1	2 (1)			4 (2)	2 (1)	6		1 (1)	1	7
マレーシア	2		2																2			6 (1)	25 (11)	31		2 (1)	2	33
インドネシア	13	9 (2)	3 (2)							1								10 (2)	3 (2)			10 (2)	3 (2)	13		1	1	14
フィリピン	3														3				3				3	3				3
韓国																							12 (1)	12		7 (4)	7	19
モンゴル	7		5 (4)											1 (1)	1			1 (1)	6 (4)			17 (9)	7 (4)	24		2 (1)	2	26
ベトナム	2													1 (1)	1			1 (1)	1			3 (2)	18 (6)	21				21
中国	23		2 (1)								1				20 (6)				23 (7)				78 (14)	78	1 (1)	8 (5)	9	87
ラオス	1		1																1				1	1				1
台湾																										2 (1)	2	2
シリア	1		1																1				1	1				1
イスラエル																									1 (1)		1	1
アラブ首長国連邦	1		1																1				1	1				1
エジプト	1										1 (1)								1 (1)				1 (1)	1				1
マダガスカル	1		1																1				1	1				1
ケニア	1		1 (1)																1 (1)			2 (1)	1 (1)	3				3
タンザニア	5	1	4 (1)															1	4 (1)			1	4 (1)	5				5
コンゴ民主共和国	1		1																1				1	1				1
ナイジェリア	1														1				1				1	1				1
ガーナ	1									1								1				1		1				1
リベリア	1	1																1				1		1				1
ザンビア	1		1																1				1	1				1
コートジボワール	1														1 (1)				1 (1)				1 (1)	1				1
モロッコ	1													1 (1)				1 (1)				1 (1)		1				1
エチオピア	1		1																1				1	1				1
ジンバブエ	1		1																1			1	1	2				2
マラウイ	1														1 (1)				1 (1)				1 (1)	1				1
ナミビア	1		1 (1)																1 (1)				1 (1)	1				1
ボツワナ	2	2 (2)																2 (2)				2 (2)		2				2
モザンビーク	3		3																3				3	3				3
ジブチ	1		1																1				1	1				1
パプアニューギニア	1		1																1				1	1				1
メキシコ	1										1 (1)								1 (1)				1 (1)	1				1
チリ																										1	1	1
セントルシア	1									1 (1)								1 (1)				1 (1)		1				1
フィンランド																										1 (1)	1	1
フランス	1																1				1					1	1	1
ウクライナ	1		1 (1)																1 (1)				3 (2)	3	1 (1)	2 (2)	3	6
ウズベキスタン	2		2																2				2	2				2
カザフスタン	2		2																2				2	2				2
キルギス	1		1																1				1	1				1
タジキスタン	2		2																2				2	2				2
計	100	15 (4)	41 (12)							4 (1)	3 (2)			5 (5)	31 (10)		1	24 (10)	75 (24)		1	54 (23)	187 (51)	241	3 (3)	28 (16)	31	272

外国人研究員等

〈外国人客員研究員数〉

令和7年度受入実績

部局名	国・地域	人数
国際資源学研究科	フィリピン	1
	モンゴル	1
	中国	1
	インドネシア	3
	ナミビア	1
	ガーナ	1
	タイ	1
	モザンビーク	2
	マダガスカル	2
医学系研究科	イラン	1
	ベトナム	1

国際交流協定校

〈大学間協定（37カ国・地域81大学・機関）〉

令和8年5月1日現在

国・地域名		大学名	締結年月日
アジア	インド	インド工科大学マドラス校	2014年 3月21日
		ベロール工科大学	2015年 6月12日
	インドネシア	バンドン工科大学	2012年 7月12日
		トリサクティ大学	2014年 6月10日
		ガジャマダ大学	2015年 6月 8日
		ブルタミナ大学	2018年 8月16日
		パジャジャラン大学	2019年 3月26日
	韓国	国立ハンバット大学校	2001年 6月 8日
		圓光大学校	2007年10月12日
		国立江原大学校	2008年 3月24日
		韓国海洋大学	2025年 2月 5日
	タイ	チュラロンコン大学	2012年11月28日
		スラナリー工科大学	2015年 9月27日
		チェンマイ大学	2015年12月10日
	台湾	龍華科技大学	2005年 7月15日
		国立台湾大学	2019年 3月 7日
		国立彰化師範大学	2020年 1月22日
		国立成功大学	2023年 2月20日
		長榮大学	2023年 3月 3日
		国立台北科技大学	2025年12月25日
	中国	黒龍江大学	1988年10月19日
		中南大学	2004年 8月24日
		遼寧工程技術大学	2005年 4月20日
		大連民族大学	2005年 6月27日
		蘭州大学	2005年 8月 1日
		吉林大学	2007年 2月 6日
		東北大学	2007年 8月 9日
		東華大学	2009年12月 3日
		華中科技大学	2010年 3月24日
		長安大学	2010年11月18日
		北華大学	2012年11月20日
		嘉興大学	2014年11月12日
		西北師範大学	2019年12月12日
	フィリピン	フィリピン大学デリマン校	2012年 9月24日
		フィリピン大学マニラ校	2013年 2月 4日
		フィリピン大学ロスバニョス校	2020年10月 9日
	ベトナム	ハノイ工科大学	2008年12月 2日
		ハノイ交通・通信大学	2008年12月 3日
	マレーシア	マラヤ大学	2013年11月20日
	ミャンマー	ヤンゴン大学	2014年 9月19日
	モンゴル	モンゴル科学技術大学	2009年10月22日
		新モンゴル学園	2016年 1月25日
		新モンゴル工科大学	2016年 1月25日
		国立モンゴル科学技術大学付属高専	2023年12月 1日
		モンゴル工業技術大学付属高専	2023年12月 1日
		新モンゴル高専	2023年12月 1日
アフリカ	ケニア	ケニヤッタ大学	2010年 3月 2日
	ボツワナ	ボツワナ国際科学技術大学	2009年10月23日
		ボツワナ大学	2011年 3月31日
	モザンビーク	エドゥアルド・モンドラーネ大学	2014年 1月12日
		テテ工科大学	2017年 3月23日
	南アフリカ	ウィットウォーターズランド大学	2014年 9月 1日
	ザンビア	ザンビア大学	2020年11月20日
	タンザニア	ダルエスサラーム大学	2024年 3月26日
オセアニア	オーストラリア	グリフィス大学	1994年 6月29日
		カーティン大学	2013年 8月 1日
	パプアニューギニア	パプアニューギニア工科大学	2016年 8月 3日
北米	アメリカ	セント・クラウド州立大学	1996年 7月24日
		グアム大学	2021年 7月14日
		モンタナ工科大学	2026年 3月17日
	カナダ	ニューファンドランドメモリアル大学	2013年 6月17日
中南米	チリ	サンチアゴ大学	2013年11月21日
中東	イスラエル	ハイファ大学	2010年 9月24日
	アラブ首長国連邦	アラブ首長国連邦大学	2018年11月 6日
ヨーロッパ（NIS諸国を含む）	イタリア	カリアリ大学	2009年12月 9日
		フェラーラ大学	2014年 6月30日
	ウズベキスタン	タシケント工科大学・ウズベキスタン日本青年技術革新センター	2024年 6月24日
	カザフスタン	東カザフスタン工科大学	2011年 6月 8日
		ナザルバエフ大学	2021年 5月11日
	キルギス	キルギス工科大学	2023年11月27日
	スウェーデン	ルレオ工科大学	2013年 5月 9日
	タジキスタン	タジキスタン鉱山冶金大学	2021年 3月12日
		タジク国立大学	2024年 7月31日
	ドイツ	フライベルク工科大学	2012年 7月 4日
	フィンランド	ラップランド応用科学大学	2009年10月23日
	ポーランド	クラクフ経済大学	2018年 9月12日
	ルーマニア	ブカレスト大学	2010年 9月28日
	ボスニア・ヘルツェゴビナ	バニャルカ大学	2022年10月21日
		東サラエボ大学	2023年 2月16日
	ベルギー	ヴィヴェス応用科学大学	2022年12月 7日
	ウクライナ	ボリス・グリンチェンコ記念キーウ市立大学	2024年 6月28日
		キーウ国立文化芸術大学	2025年 9月30日

〈部局間協定（29カ国・地域49学部等）〉

令和8年5月1日現在

部局名	国・地域名		大学・学部等名	協定締結年月日
国際資源学研究科	アジア	インドネシア	ハサヌディン大学工学部	2014年 4月23日
			パジャジャラン大学地質工学部	2018年10月 1日
			ブンバグナン・ナショナル・ベテラン・ジョグジャカルタ大学 エネルギー鉱物テクノロジー学部	2020年10月20日
			インドネシア国立研究イノベーション庁地球科学海洋研究機構地質資源研究センター	2025年 2月27日
		タイ	カセサート大学理学部	2019年 5月29日
		モンゴル	モンゴル日本人材開発センター	2024年 7月29日
	ヨーロッパ（NIS諸国を含む）	カザフスタン	サタバエフ・カザフ国立技術大学	2024年 5月 8日
		セルビア	ベオグラード大学工学部ボール校	2017年 5月 3日
			ベオグラード大学化学技術製錬研究所	2020年 6月16日
		ポーランド	AGHクラクフ大学	2018年10月 1日
		ウズベキスタン	日本青年技術革新センター（UJICY）	2020年11月 6日
			ウズベキスタン国立地質大学／日本青年技術革新センター（UJICY）	2021年12月14日
			ナヴォイ鉱業技術大学	2021年12月22日
		タジキスタン	タジキスタン共和国科学アカデミー附属科学・新技術革新開発センター	2021年11月15日
	北米	カナダ	ケベック大学州立科学研究所	2019年 9月18日
			アルバータ大学工学部	2022年 6月 2日
	南米	ペルー	ペルー国立工科大学地質・鉱山・冶金工学部	2025年10月 2日
教育文化学部	アジア	韓国	大韓民国聖公会大学校韓国語学堂	2019年 1月28日
医学系研究科	アジア	中国	中国衛生部北京医院	1995年11月14日
		シンガポール	シンガポール国立大学看護学部	2016年 3月 7日
		タイ	スラナリー工科大学看護学部	2019年 5月10日
		インドネシア	国立イスラム大学医学部	2025年 2月 1日
			トリサクティ大学	2025年 5月27日
			ウィラメディカバリ健康科学大学	2025年 4月 1日
	ヨーロッパ	フランス	リール大学医学部	2011年 4月13日
		ベルギー	ヴィヴェス応用科学大学看護学・作業療法学部	2022年12月 7日
		ボスニア・ヘルツェゴビナ	東サラエボ大学医学部	2023年 7月13日
		アイルランド	アイルランド王立外科医学院	2025年 5月14日
		スイス	スイス南部応用科学芸術大学	2025年 8月13日
		オーストリア	インスブルック医科大学	2026年 1月26日
	北米	アメリカ	ハワイ大学 ジョン・A・バーンズ医学大学院	2016年 8月 4日
理工学研究科	アジア	台湾	明新科技大学工学院	2010年 4月12日
		中国	清華大学精密儀器与機械学系	2007年 3月 1日
			清華大学化学系	2008年 1月17日
			同濟大学材料科学与工程学院	2010年 5月24日
			同濟大学上海市金属効能材料開発応用重点実験室	2010年 5月24日
		インド	SRM科学技術大学工学技術学部	2025年11月 4日
		マレーシア	マレーシア工科大学・マレーシア日本国際工科院	2021年 3月 9日
			マレーシア国民大学太陽エネルギー研究所	2023年 8月10日
		タイ	泰日工業大学	2022年11月30日
			コンケン大学	2025年 6月17日
	アフリカ	チュニジア	スファックス大学工学部	2003年12月18日
			オタゴ大学科学部化学科	2023年 8月18日
	ヨーロッパ	ハンガリー	デブレツェン大学理工学部	2025年12月12日
		チェコ	ブルノ工科大学	2024年 2月 5日
		英国	アストン大学工学物理学部	2022年 5月11日
		ポーランド	AGHクラクフ大学	2024年 6月13日
		スイス	フリブール工学・建築大学	2026年 2月18日
電動化システム共同研究センター	オセアニア	オーストラリア	ストラリス・エアクラフト	2024年 4月24日

〈大学間協定〉

令和8年5月1日現在

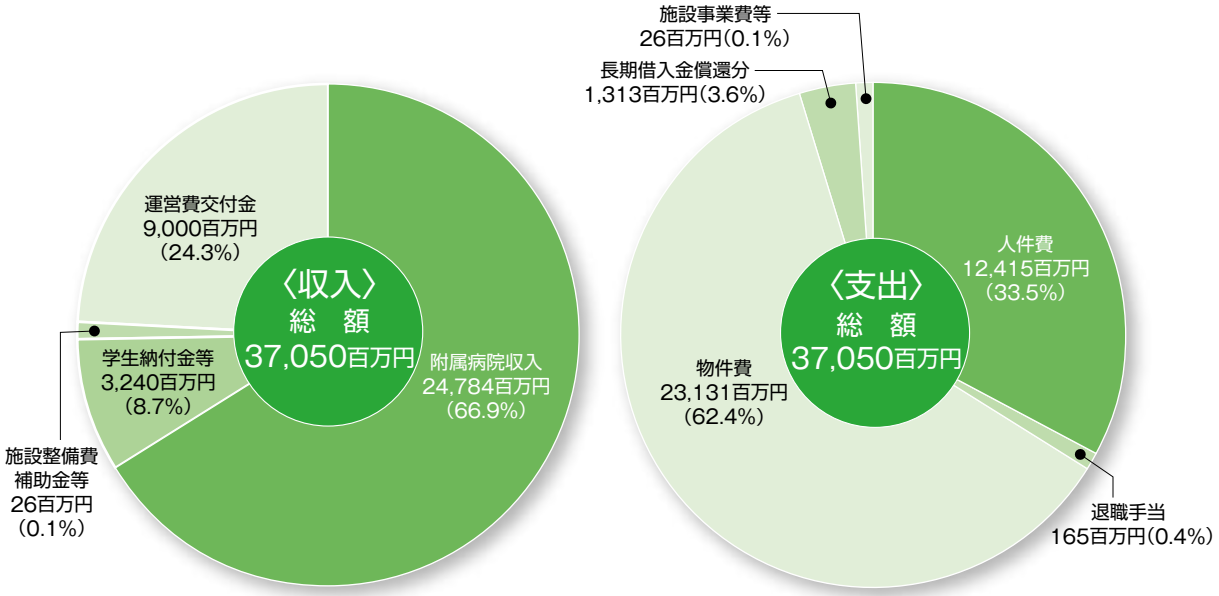
	協定締結日	締結先	協定の形態等	備考
自治体	平成18年 9月25日	秋田県	連携協定	
	平成20年 7月11日	秋田市	〃	
	平成20年10月24日	大館市	〃	
	平成20年11月 5日	小坂町	〃	
	平成20年11月17日	能代市	〃	
	平成21年 2月 7日	横手市	〃	
	平成21年10月 6日	北秋田市	〃	
	平成22年 5月26日	大仙市	〃	
	平成22年12月10日	八峰町	〃	
	平成23年 2月17日	男鹿市	〃	
	平成23年 5月13日	美郷町	〃	
	平成24年 2月17日	潟上市	〃	
	平成24年11月20日	湯沢市	〃	
	平成26年 9月26日	東成瀬村	〃	
	平成26年11月26日	仙北市	〃	
	平成30年10月25日	にかほ市	〃	
	令和 5年12月19日	大潟村	〃	
大学	平成10年 3月23日	放送大学	単位互換に関する協定	
	平成14年 3月27日	秋田県内3大学	〃	
	平成15年10月 9日	秋田県内高等教育機関	〃	平成22年4月1日から12高等教育機関へ拡大
	平成19年12月25日	群馬大学	グローバルCOEプログラム「生態調節シグナルの統合的研究」	
	平成20年 7月22日	秋田県立大学	連携協力協定	
	平成21年 3月24日	秋田県立大学、国際教養大学	〃	平成26年4月1日から秋田公立美術大学を加えて秋田県内4大学へ拡大
	平成24年10月 3日	東北公益文科大学	〃	
	平成25年 1月31日	東京大学生産技術研究所	〃	
	令和 5年 3月28日	島根大学	包括的連携協定	
その他企業等	平成15年12月24日	秋田県立脳血管研究センター	連携大学院協定	
	平成17年 3月17日	秋田大学生活協同組合	福利厚生事業に関する協定	
	平成18年 7月19日	(株)秋田銀行	連携協力協定	
	平成18年10月24日	(株)北都銀行	〃	
	平成18年12月 6日	商工組合中央金庫秋田支店	産学連携協力推進協定	
	平成19年 3月 6日	(株)日本政策金融公庫　秋田支店	〃	中小企業金融公庫から平成20年10月1日に改称
	平成19年 7月24日	DOWAホールディングス(株)	包括的連携協定	
	平成20年 9月11日	(株)わらび座	連携協力協定	
	平成23年 4月13日	(独)石油天然ガス・金属鉱物 資源機構	資源分野における包括協定	
	平成23年11月29日	美郷町商工会	産学連携に関する覚書	
	平成24年 1月20日	大仙市商工会	〃	
	平成25年11月19日	(独)国際協力機構(JICA)	資源分野の戦略的連携合意書	
	平成26年 9月24日	(株)北都銀行	新戦略連携協定	
	平成28年 7月14日	北東北国立3大学、秋田銀行、岩手銀行、青森銀行	知的財産の活用に関する協定「ネットビックスプラス」	
	平成29年 3月29日	東京工業大学、(一社)秋田県医師会	連携協定	
	平成29年 4月11日	(株)秋田魁新報社	包括的連携協力協定	
	令和元年10月10日	秋田県立秋田北高等学校	高大連携協定	
	令和 2年 5月15日	NEXCO東日本東北支社	産学連携推進協定	
	令和 3年 3月 4日	イオン(株)	包括的連携協定	
	令和 3年 5月13日	三菱商事エナジーソリューションズ(株)、(株)ウェンティ・ジャパン、(株)北都銀行	風力発電分野における産学金連携に関する協定	
	令和 4年 5月27日	三井物産(株)、大阪瓦斯(株)、Northland Power International Holdings B.V.、ユナイテッド計画(株)	洋上風力発電を主とした再生可能エネルギー分野における産学連携に関する協定	
	令和 4年10月13日	イオンタウン(株)	秋田市外旭川地区まちづくり事業の連携協力に関する協定	
	令和 5年 3月 9日	秋田県、(株)テクノス秋田、(株)フォーラムエイト、(株)ブロードバンドセキュリティ	情報関連産業の振興に係る連携協定	
	令和 5年 3月17日	ジャパン・リニューアブル・エナジー（株）、ENEOS（株）、東北電力(株)、(株)秋田銀行	再生可能エネルギー産業の発展と地方創生に関する連携協定	
	令和 5年 6月19日	イオンモール(株)	産学連携協力に関する連携協定	
	令和 5年 6月28日	東急不動産(株)	連携協定	
	令和 6年 2月16日	東日本電信電話(株)秋田支店	デジタル技術を活用した地域活性とデジタル人財の育成に関する協定	
	令和 7年 2月13日	(株)アルム	次世代医療DX開発に向けた産学連携協定	
	令和 7年 4月22日	TDK(株)	包括的連携協定	
	令和 7年 7月28日	秋田エプソン(株)	医療・産業技術の発展に関する連携協定	
	令和 7年12月15日	ジェクス(株)	医療・口腔衛生及び健康増進に関する連携協定	
	令和 8年 1月23日	住友生命保険(相)	秋田県民の健康づくりの推進に関する連携協定	
	令和 8年 3月16日	日本生命保険(相)	包括連携協定	
	令和 8年 3月18日	(一社)秋田県医師会	連携協定	

〈部局間協定〉

令和8年5月1日現在

部局名	協定締結日	締結先	協定の形態等
国際資源学研究科	平成26年11月 1日	高知大学海洋コア総合研究センター	学部間協定
	平成31年 4月22日	一般財団法人日本エネルギー経済研究所中東研究センター	協力協定
教育文化学部	平成19年 3月23日	秋田県秋田北高等学校	連携教育協定
	平成21年 3月26日	秋田県教育委員会	秋田県総合教育センター研修員の授業科目の履修に関する協定
	平成24年 8月 1日	秋田県教育委員会、秋田市教育委員会	連携協定
	平成30年 2月 8日	秋田刑務所	共同研究及び連携に関する協定
	平成30年10月 1日	秋田県中小企業家同友会	連携協定
理工学研究科	平成18年11月21日	秋田県産業技術センター	学部間協定
	令和 2年 3月12日	秋田県、能代市	連携協定
	令和 4年 8月29日	長崎大学海洋未来イノベーション機構、長崎大学総合生産科学域	洋上風力発電人材育成に関する連携・協力協定
	令和 7年12月23日	秋田工業高等専門学校	学術交流に関する協定
	令和 8年 2月27日	長崎大学大学院総合生産科学研究科、秋田県立大学大学院システム科学技術研究科、北九州市立大学大学院国際環境工学研究科、新潟大学大学院自然科学研究科及び株式会社千葉大学コネクト	洋上風力発電人材育成に関する連携・協力協定(6者間)
未来研究統括機構	令和 3年 3月25日	(株) JERA、電源開発(株)、Wind Power AS	人材育成及び研究の連携可能性検討に関する覚書
	令和 5年 1月30日	(株) JERA、電源開発(株)、伊藤忠商事(株)	人材育成及び研究の連携可能性検討に関する覚書

令和8年度予算



※金額は令和8年度予定額であり、上記収入及び支出には、産学連携等研究費及び寄附金に係る経費は含まない。

外部資金受入状況

単位:千円

名　称	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
民間等との共同研究	103	127,930	98	159,827	110	194,068	115	173,717	118	144,978	115	151,373
受託研究	124	303,545	144	319,673	143	295,544	154	418,092	152	385,824	161	327,359
奨学寄附金	690	372,449	603	351,393	593	355,401	567	353,303	551	337,066	568	370,182
寄附講座・部門	2	85,000	2	85,000	3	43,000	4	46,000	5	55,000	4	41,000
合　計	919	888,924	847	915,893	849	888,013	840	991,112	826	922,868	848	889,914

※受託研究には治験薬試験・病理組織検査・受託試験を含まない。奨学寄附金には教育研究支援基金・みらい創造基金を含まない。

令和7年度科学研究費助成事業採択状況

単位:千円　令和8年3月31日現在

研究種目	採択件数	交付金額		
		直接経費	間接経費	合計
基盤研究(A)	3	33,200	9,960	43,160
基盤研究(B)	22	98,700	29,610	128,310
基盤研究(C)	184	197,600	59,280	256,880
挑戦的研究(萌芽)	5	11,100	3,330	14,430
若手研究	69	65,700	19,710	85,410
海外連携研究	1	2,300	690	2,990
研究活動スタート支援	12	12,400	3,720	16,120
合　計	296	421,000	126,300	547,300
奨励研究	9	3,910	−	3,910

※金額は令和7年度交付内定額

令和8年5月1日現在

区分			建物 延床面積(㎡)	土地(㎡)
手形地区	国際資源学部	学　部	7,728	200,251
		附属鉱業博物館	3,768	
	教育文化学部	学　部	16,433	
		附属教職高度化センター	543	
	総合環境理工学部	学　部	31,738	
		附属クロスオーバー教育創成センター	651	
	情報データ科学部		6,586	
	中央図書館		4,520	
	情報統括センター		994	
	研究・イノベーション拠点1号館(百周年記念館含む)		2,146	
	研究・イノベーション拠点2号館		2,153	
	放射性同位元素センター		337	
	保健管理センター		562	
	大学会館		3,251	
	本部管理棟他		10,623	
	体育関係施設		4,061	
	課外活動施設		1,059	
	小　計		97,153	
本道地区	医学部	学　部	33,294	168,223
		附属病院	72,822	
		附属病院シミュレーション教育センター	1,328	
	医学図書館		1,714	
	バイオサイエンス教育・研究サポートセンター		7,246	
	環境安全センター		366	
	本道会館		1,307	
	体育関係施設		1,065	
	課外活動施設		396	
	本道寮(女子)		1,305	
	職員宿舎(糠塚)・看護師宿舎		6,923	
	保育所		331	
	小　計		128,097	
保戸野地区	教育文化学部附属幼稚園		1,220	68,807
	教育文化学部附属小学校		7,692	
	教育文化学部附属中学校		7,671	
	教育文化学部附属特別支援学校		3,606	
	小　計		20,189	
その他	手形寮(女子)、西谷地寮(男子) 他		6,189	27,642
	職員宿舎(休下町、城下町 他)		5,834	
	上記以外		612	
	小　計		12,635	
合　計			258,074	464,923

※「情報データ科学部」の建物延床面積には、「情報統括センター」の一部及び「AI研究推進センター」を含む。

各連絡先・所在地一覧

Telephone Number and Address

〈手形地区〉

名　称	電話番号	所在地
総務企画課総務担当　(総合案内)	018-889-2207	〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
評価・IRセンター	018-889-2937	
附属図書館　中央図書館	018-889-2273	
保健管理センター	018-889-2286	
未来研究統括機構 イノベーションオフィス	018-889-2712	
情報統括センター	018-889-2499	
研究・イノベーション拠点	018-889-3005	
研究・イノベーション拠点1号館	018-889-2680	
研究・イノベーション拠点2号館	018-889-3040	
未来研究統括機構 放射性同位元素センター	018-889-3005	
電動化システム共同研究センター	018-889-3003	
未来研究統括機構 AI研究推進センター	018-889-3005	
地域共創機構 リカレント教育部門担当	018-889-3246	
地域共創機構 地域協働部門担当	018-889-2270	
地域共創機構 地域防災減災部門担当	018-889-2844	
未来人材共創機構 先進教育支援部門	018-889-3191	
未来人材共創機構 高等教育共創連携部門	018-889-3191	
未来人材共創機構 高等教育共創連携部門(高大接続教育)	018-889-3045	
未来人材共創機構 地域人材定着・キャリア支援部門	018-889-2262	
未来人材共創機構 学生ライフサポート部門	018-889-2264	
未来人材共創機構 グローバル展開推進部門	018-889-2400	
未来人材共創機構 アドミッション部門	018-889-2256	
未来人材共創機構 教職キャリア支援センター	018-889-3205	
ダイバーシティ推進室	018-889-2260	
インフォメーションセンター	018-889-2931	
国際資源学研究科　総務担当	018-889-2214	
国際資源学研究科　附属鉱業博物館	018-889-2461	〒010-8502 秋田市手形字大沢28-2
教育文化学部　総務担当	018-889-2509	〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
教育文化学部　附属教職高度化センター	018-889-2700	
理工学研究科　総務担当	018-889-2305	
理工学研究科　附属クロスオーバー教育創成センター	018-889-2806	
情報データ科学部　総務担当	018-889-2268	



手形地区

〈本道地区〉

名　称	電話番号	所在地
医学部　(総合案内)	018-833-1166	〒010-8543 秋田市本道1-1-1
医学部　附属病院　(総合案内)	018-834-1111	
医学部　附属病院 シミュレーション教育センター	018-884-6427	
未来研究統括機構 臨床研究支援オフィス	018-884-6029	
未来研究統括機構 バイオサイエンス教育・研究サポートセンター分子医学部門	018-884-6191	
未来研究統括機構 バイオサイエンス教育・研究サポートセンター動物実験部門	018-884-6193	
未来研究統括機構 バイオサイエンス教育・研究サポートセンター放射性同位元素部門	018-884-6196	
環境安全センター	018-889-2247	
附属図書館　医学図書館	018-884-6052	
附属ウェルビーイング創造センター	018-801-7178	
附属デジタル医学・医療教育推進センター	018-801-7183	
附属臨床研究医養成センター	018-884-7003	
附属感染制御総合センター	018-884-7178	
附属高齢者医療先端研究センター	018-884-7178	



本道地区

〈保戸野地区〉

名　称	電話番号	所在地
教育文化学部　附属幼稚園	018-862-2343	〒010-0904 秋田市保戸野原の町14-32
教育文化学部　附属小学校	018-862-2593	〒010-0904 秋田市保戸野原の町13-1
教育文化学部　附属中学校	018-862-3350	〒010-0904 秋田市保戸野原の町7-75
教育文化学部　附属特別支援学校	018-862-8583	



保戸野地区

〈その他施設等〉

名　称	電話番号	所在地
西谷地寮(男子)	−	〒010-0851 秋田市手形西谷地5-1
手形寮(女子)	−	〒010-0862 秋田市手形田中5-50
本道寮(女子)	−	〒010-0825 秋田市柳田字糠塚100-3
国際交流会館	−	〒010-0862 秋田市手形田中5-50
留学生会館	−	〒010-0041 秋田市広面字高田4
横手サテライト	0182-38-8304	〒013-0045 横手市南町13-1 横手市民会館内
北秋田サテライト	−	〒018-3312 北秋田市花園町19-1 北秋田市役所内
男鹿なまはげサテライト	−	〒010-0595 男鹿市船川港船川字泉台66-1 男鹿市役所内
電動化システム共同研究センター 新世代モーター特性評価ラボ	018-853-0785	〒010-1224 秋田市雄和種沢字戸草沢209
放送大学秋田学習センター	018-831-1997	〒010-8502 秋田市手形学園町1-1

手形地区施設配置図

Tegata Campus Map



ネーミングライツ
※1　TDK Venture Spirit Hall
令和7年4月22日～
※2　DOWA×秋田大学中央図書館
令和8年7月1日～

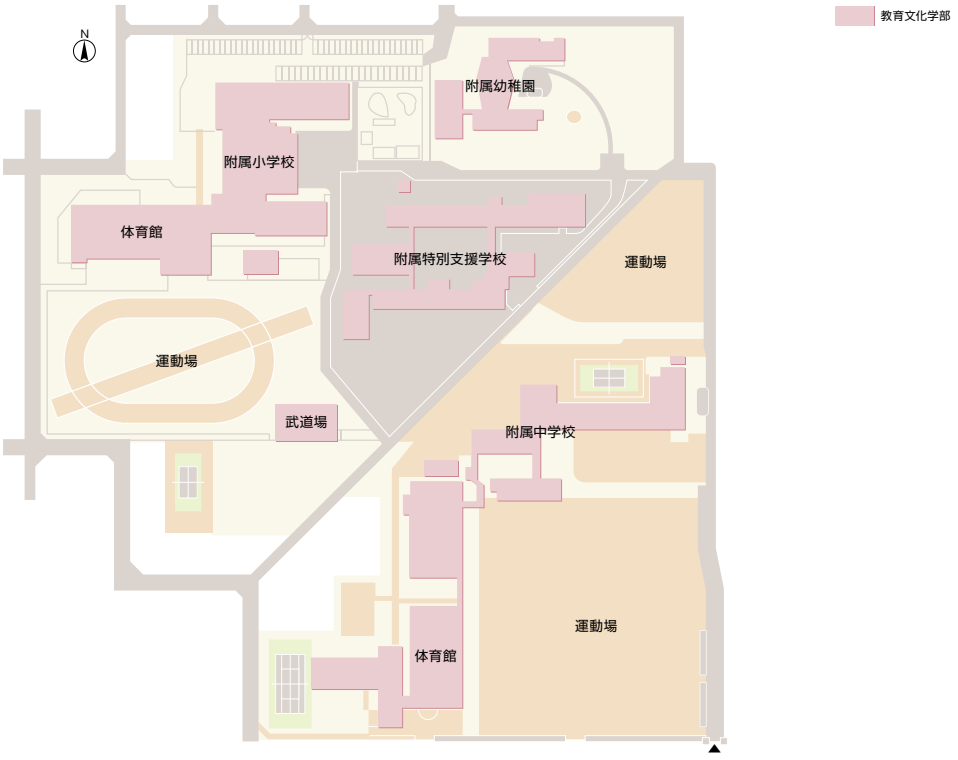
本道地区施設配置図

Hondo Campus Map



保戸野地区施設配置図

Hodono Campus Map



アクセス Access



〈秋田まで〉

令和8年4月現在

東京から	羽田空港―秋田空港(約1時間5分)
	秋田新幹線「こまち」 東京駅―秋田駅(約3時間50分)
名古屋から	中部国際空港―秋田空港(約1時間20分)
大阪から	大阪国際(伊丹)空港―秋田空港(約1時間30分)
札幌から	新千歳空港―秋田空港(約1時間) 丘珠空港―秋田空港(約1時間)

秋田空港～秋田駅間リムジンバス	秋田空港―秋田駅西口(約40分)

〈秋田駅から秋田大学まで〉

令和8年4月現在

行き先	バス路線(秋田中央交通)	秋田駅前バスのりば	下車バス停(所要時間)
手形地区	手形山大学病院線	西口⑫番	秋田大学前(約5～30分)
	秋田温泉線 ※平日のみ	西口⑫番	
	●秋田駅東口より徒歩約15分		
本道地区	太　平　線	西口⑪番	大学病院前(約10～20分)
	赤　沼　線		
	松崎団地線		
	手形山大学病院線	西口⑫番	
	赤　沼　線	東口②番	
保戸野地区	泉八橋環状線 ※平日のみ(八橋回り)	西口②番	原の町(約5～25分)
	神田旭野線	西口⑧番	
	添　川　線 ※平日のみ		
	泉八橋環状線 ※平日のみ(泉回り)		





秋田大学の学章については、昭和24年9月16日に秋田大学開学記念として、懸賞募集の結果、臨時評議会において1等当選となった図案である。3枚の秋田蕗の葉に、大学の文字を配したもので、当時の鉱山学部教官中村譲氏の考案による。その後秋田大学のシンボルマークとして使用されてきたが、平成16年4月1日に学章として定められ、同時に校旗の制式も定められた。

秋田大学概要

令和8年度

[編集発行]
秋田大学広報課

秋田市手形学園町1番1号　〒010-8502
TEL018-889-3019　FAX018-889-3242
E-mail kouhou@jimu.akita-u.ac.jp
https://www.akita-u.ac.jp